

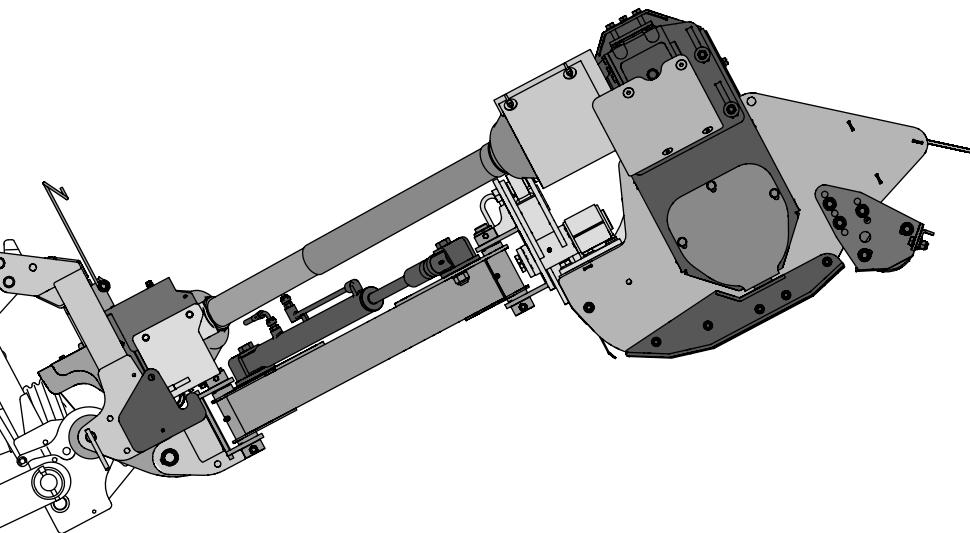
ニプロ

スライドモア

TDX1400/TDX1600 シリーズ

◎ご使用前に必ず本取扱説明書をよくお読みになり、使用後は大切に保管してください。

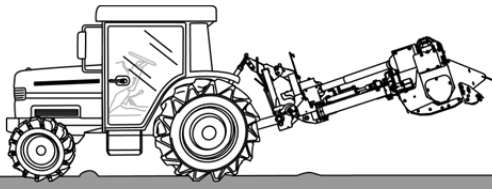
◎取扱説明書は、必ず使用される方へお渡しください。



Niplo

取扱説明書

- 1 安全について
- 2 概要と各部の名称
- 3 製品の確認
- 4 取付ける前に
- 5 取付けについて
- 6 調整について
- 7 作業前の点検
- 8 油圧取出し
- 9 移動・ほ場への出入りと作業
- 10 取外しについて
- 11 保守・点検
- 12 格納について
- 13 保証とサービスについて
- 14 用語と解説



はじめに

このたびは、ニプロスライドモアをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の取扱方法や操作手順、使用上の注意事項等を説明したものです。ご使用前に必ずよく読み十分理解されてから、正しくお取扱ください。

使用目的・用途について

- 本スライドモア（以下作業機と記す）は、トラクタに取付け、休耕地・農道路肩の草刈りやグラウンドの雑草刈りに使用してください。使用目的以外の作業には、決して使わないでください。使用目的以外の作業で故障した場合は、保証の対象になりません。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。

国外への持ち出し（輸出）について

- 本作業機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定などは実施していません。本作業機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故などによる補償などの問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を負いません。

安全対策について

- 当社は、この作業機に関する危険をすべて予測することができません。また、取扱説明書や警告ラベルでその危険をすべて伝えることができません。したがって、作業機の運転、保守作業については、一般的に求められる安全対策の配慮が必要です。
- 日本語を母国語としない人が本作業機を取扱う場合は、お客様において取扱者に対して取扱指導および安全指導を実施してください。更に、取扱者の母国語で、警告ラベル記載文言に相当する文言を貼付・記載してください。
- この取扱説明書には安全に作業をしていただくために、安全上のポイント「1.3 安全に作業をするために」（2～12 ページ）を記載しています。ご使用前に必ず読み、理解してください。

廃棄処理に関する注意事項

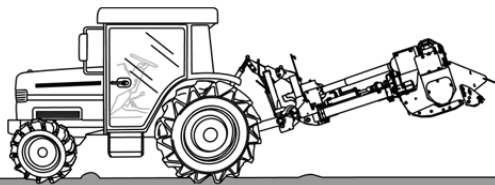
- 本作業機や消耗部品の廃棄については、各地方の条例に従ってください。

本書の取扱いおよびお問い合わせ

- この取扱説明書は、当社の著作物です。無断でこの取扱説明書のすべて、もしくは部分的に関わらず、当社の同意なしに複写・複製することを禁じます。
- 品質、性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。そのような場合には、本書の内容およびイラストなどの一部が本作業機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- お読みになった後は、必ず作業機の近くに保管し、必要になった時に読めるようにしてください。
- 作業機を他人に貸したり、譲り渡されたりする場合は、この取扱説明書を作業機に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失、または損傷した場合は、速やかにお買い上げいただきました購入先へご注文ください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただきました購入先へご相談ください。

型式と区分について

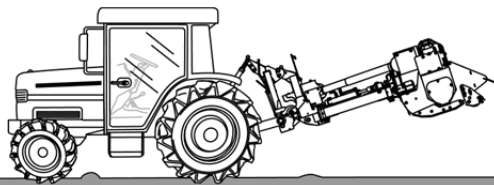
- この取扱説明書では、型式・区分の異なる作業機を併記しています。お買い上げいただいた作業機の型式・区分を、作業機に貼付してあるネームプレートで確認し（「13.2.2 ネームプレート」（55 ページ）を参照）、該当箇所をお読みください。



目次

はじめに	i
目次	1
1 安全について	
1.1 警告文の定義	2
1.2 その他の注意補足等	2
1.3 安全に作業をするために	2
1.3.1 一般的な注意事項	2
1.3.2 取付け・取外しの注意事項	4
1.3.3 油圧取出しの注意事項	6
1.3.4 移動・作業時の注意事項	7
1.3.5 保守・点検・調整時の注意事項	11
1.3.6 格納時の注意事項	12
1.4 警告ラベルの種類と位置	13
1.5 注意銘板とその他のラベルの種類と位置	14
2 概要と各部の名称	
2.1 概要	15
2.2 トラクタとの関係	15
2.3 主要諸元	16
2.4 各部の名称	18
3 製品の確認	19
4 取付ける前に	
4.1 トラクタの規格	19
4.2 トラクタの準備	20
4.2.1 4L/3L/0L シリーズ	20
4.2.2 標準3点リンク直装 (1L シリーズ)	20
4.3 装着姿勢の確認	20
4.4 カプラの準備	21
5 取付けについて	
5.1 取付けの注意事項	21
5.2 カプラの取付け	22
5.3 ジョイントの取付け	23
5.3.1 4L シリーズ	24
5.3.2 3L シリーズ/標準3点リンク直装 (1L シリーズ)	25
5.3.3 切断方法	26
5.4 トラクタへの取付け	27
5.4.1 4L/3L シリーズ	27
5.4.2 標準3点リンク直装 (1L シリーズ)	29
6 調整について	
6.1 調整時の注意事項	31
6.2 水平調整	31
6.2.1 自動水平装置付トラクタ	31
6.2.2 自動水平装置のないトラクタ	31
6.3 チェックチェーンの調整	31
6.4 最上げ位置の調節	32
6.5 前後角度調整	32

7 作業前の点検	33
8 油圧取出し	
8.1 油圧取出しの注意事項	34
8.2 油圧取出しのしかた	34
8.3.1 外部油圧取出口と油圧ホースの接続	34
9 移動・ほ場への出入りと作業	
9.1 移動・作業時の注意事項	36
9.2 移動のしかた	38
9.3 作業のしかた	39
9.3.1 旋回作業方法	39
9.4 上手な作業のしかた	39
9.4.1 作業速度	39
9.4.2 PTO 回転速度	39
9.4.3 刈り高さの調整	39
9.5 横スライド操作	40
9.6 傾斜操作	40
10 取外しについて	
10.1 取外しの注意事項	40
10.2 取外しの準備	41
10.3 トラクタからの取外し	42
10.3.1 4L/3L シリーズ	42
10.3.2 標準3点リンク直装 (1L シリーズ)	43
11 保守・点検	
11.1 保守・点検時の注意事項	44
11.2 ボルト・ナットのゆるみ点検	45
11.3 ジョイントの給油	45
11.4 オイル量の点検と交換	46
11.4.1 ミッションケース	46
11.4.2 グリースの補充	47
11.5.1 平行リンク油圧シリンダ	47
11.5.2 ローラー軸受部	47
11.5.3 カutting軸受部	47
11.6 Vベルトの調整	48
11.6.1 フタの外し方	48
11.6.2 Vベルトの調整	48
11.6.3 Vベルトの交換	50
11.7 フレール爪の点検と交換	51
11.8 点検整備チェックリスト	52
11.9 異常と処置一覧表	53
12 格納について	54
13 保証とサービスについて	
13.1 保証について	55
13.2 アフターサービスについて	55
13.2.1 修理を依頼されるとき	55
13.2.2 ネームプレート	55
13.3 補修部品と供給年限について	56
14 用語と解説	57






1 安全について

1.1 警告文の定義

この取扱説明書で使用している表示を以下に示します。
危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。
表示の内容をよく理解してから本文を読み、記載事項を守ってください。

◆表示の説明

 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高い状態を示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことがあり得る状態を示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、軽傷または中程度の傷害を負うかもしれない状態を示します。

1.2 その他の注意補足等



◆注意補足の説明

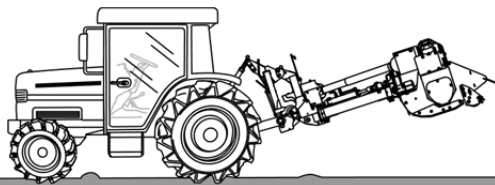
重要	その警告文に従わなかった場合、作業機やトラクタの損傷、故障のおそれがあるものを示します。
環境	環境保護のために知っておいていただきたいことや、守っていただきたいことを記載しています。
注記	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

1.3 安全に作業をするために

ここに記載している警告文を守らないと、死亡・傷害事故や、作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。よく読んで、作業を行う場合は十分注意してください。

1.3.1 一般的な注意事項

 警告	
こんなときは運転しない	
<ul style="list-style-type: none">● 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により作業に集中できないとき● 酒を飲んだとき● 妊娠しているとき● 年少者や運転の未熟な人	
【守らないと】傷害事故をまねくおそれがあります。	



⚠ 警告

作業に適した服装をする

ヘルメット・すべり止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない服装をしてください。
はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。

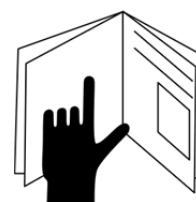
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



本作業機を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、必ず使用前に取扱説明書を読むように指導してください。

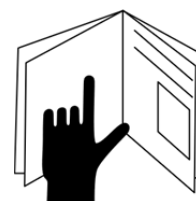
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



本作業機を他人に譲り渡すときは取扱説明書を付ける

本作業機と一緒に取扱説明書を渡し、必ず読むように指導してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



作業機の改造禁止

改造をしないでください。保証の対象になりません。

純正部品や指定以外の部品を取付けしないでください。

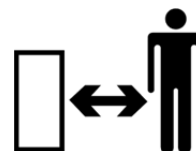
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



トラクタと作業機の周りに人（特に子供）を近づけない

トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



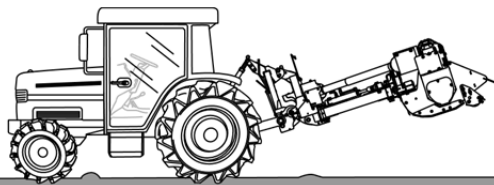
重量バランスの調整をする

・トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、前輪分担荷重が全重の25%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。

・トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。





⚠ 注意

交通法規を順守する

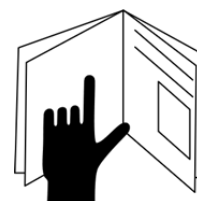
トラクタに作業機を装着した状態では、「道路運送車両法の保安基準」を満たしていなければ道路走行することはできません。トラクタと作業機の組み合わせごとに「保安基準」を満たしていることの確認が必要です。

【守らないと】道路運送車両法違反となります。また、事故を引き起こすおそれがあります。

トラクタの取扱説明書をよく読む

必ずトラクタの取扱説明書をよく読み、理解してください。

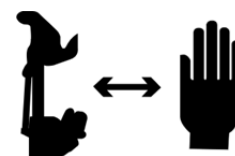
【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



カプラのハンドルには絶対に手を触れない（カプラ仕様）

作業機の取付け・取外しのとき以外は、絶対にカプラのハンドルには手を触れないでください。また、必ずロックピンをかけ、カプラのハンドルをロックしてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。



1.3.2 取付け・取外しの注意事項

⚠ 危険

カバー類を元どおりに取付ける

取外したトラクタのPTO軸カバー、作業機の入力軸カバーを元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



⚠ 警告

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

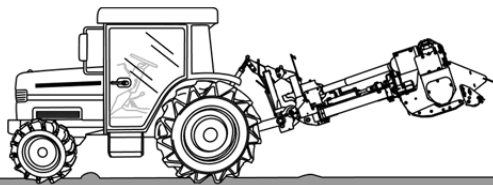


作業機の取付け・取外しは、平らな場所で行う

平らで固い場所を選び、いつでも危険を避けられる態勢で行ってください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。





⚠ 警告

必ず取付けの制限を守る

適応馬力内であっても、質量が 3,800 kg を超えるトラクタには取付けができません。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

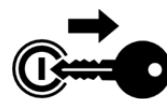


作業機の取付け・取外しは、エンジンを停止して行う

・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

・PTO 回転を止めても、10 秒以上の間、カッティング軸が回り続けるため、必ずカッティング軸の回転が止まっていることを確認してから、取外しを行ってください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機の取外しは、作業機を格納位置にし、スタンドを取付けて行う

作業機をトラクタから取外す前に、必ず作業機を格納位置にし、スタンドを取付けてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、作業機の損傷をまねくおそれがあります。



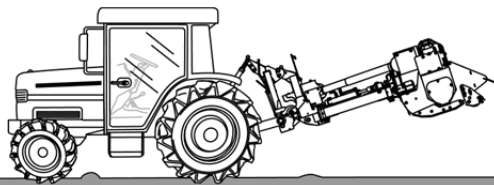
⚠ 注意

油圧取出しの接続を取外す

作業機を取外す前に、必ず油圧取出しの接続を取外してください。

【守らないと】油圧ホースやコネクタ類の損傷、または作業機が転倒し損傷します。





1.3.3 油圧取出しの注意事項

警告

コネクターは確実に接続する

【守らないと】作動油が噴き出し、目や口に入り、人体に悪影響をおよぼすおそれがあります。

接続作業は、平らな場所で行う

平らで固い場所を選び、いつでも危険を避けられる態勢で行ってください。

【守らないと】油圧ホースやコネクターが損傷したり、作業機が転倒し、死亡事故や傷害事故につながったりします。



注意

油圧ホース内の圧力を抜く

作業機の油圧ホースをトラクタの外部油圧取出口から取外す前に、必ず油圧ホース内の圧力を抜いてください。

【守らないと】作動油が噴き出し、目や口に入り、人体に悪影響をおよぼすおそれがあります。

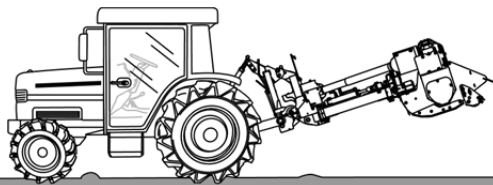
油圧ホースの接続部に顔を近づけない

作業機の油圧ホースをトラクタの外部油圧取出口に取付け・取外しする際、接続部に顔を近づけないでください。

【守らないと】作動油が噴き出し、目や口に入り、人体に悪影響をおよぼすおそれがあります。

油圧ホースは、結束バンドが付いている側を、外部油圧取出口の逆止弁付きポート側に接続する

【守らないと】作業機が少しずつ外側へスライドしてしまい、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。



1.3.4 移動・作業時の注意事項

⚠ 警告

急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしない

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



運転者以外の人や物をトラクタや作業機に乗せて運ばない

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。

【守らないと】何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。



周囲の人や物に注意して走行する

トラクタに作業機が付いていると、後ろが長く、横幅が広くなります。周囲の人や物に注意して走行してください。

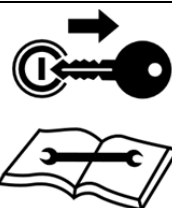
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



積込み、積降しは、サイドブレーキをかけ、車止めをして行う

積込み、積降しをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。



あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用する

あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用して、地面に接しない程度に作業機を下げ、重心を低くしてください。

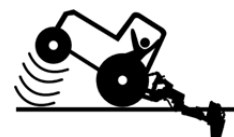
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

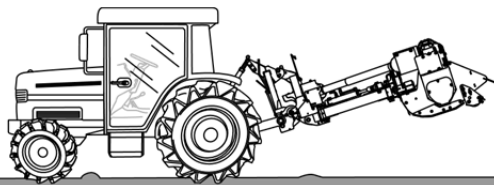


アユミ板は、強度・長さ・幅の十分あるものを使用する

使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めの付いているものを選んでください。長さの目安は荷台高さの4倍、またはあぜや段差の4倍です。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。





⚠ 警告

重量バランスの調整をする

- ・急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなります。前輪分担荷重が全重の25%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。
- ・トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



両側に溝や傾斜のある農道を通るときは、特に路肩に注意する

軟弱な路肩、草の茂ったところは通らないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



ほ場への出入りは、必ずあぜと直角に行う

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



傾斜地では作業走行しない

作業は平坦な場所で行ってください。傾斜地での作業は、転倒のおそれがあり大変危険です。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機を格納位置にして移動する

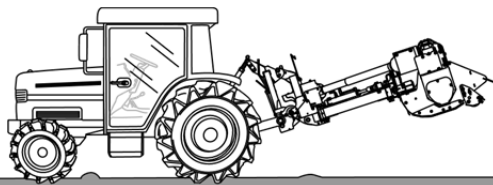
必ず作業機を格納位置にしてから移動・走行をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機は、絶対に素手で触れたり、足でけったりしない

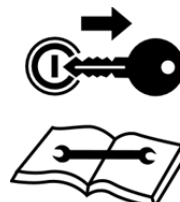
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機の損傷につながるおそれがあります。



⚠ 警告

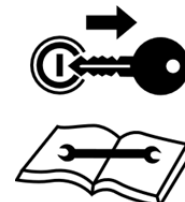
作業機やトラクタに巻き付いた草などを取る時はエンジンを停止する

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
 - ・PTO 回転を止めても、10 秒以上の間、カッティング軸が回り続けるため、必ずカッティング軸の回転が止まっていることを確認してから、巻き付きを外してください。
- 【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。



作業機の調整はエンジンを停止して行う

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
 - ・PTO 回転を止めても、10 秒以上の間、カッティング軸が回り続けるため、必ずカッティング軸の回転が止まっていることを確認してから、調整を行ってください。
- 【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



移動時は、必ずトラクタの PTO 変速レバーを「中立」の位置にする

移動（前進・後進）するときは、必ずトラクタの PTO 変速レバーを「中立」の位置にしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



果樹園での作業は、前方に注意する

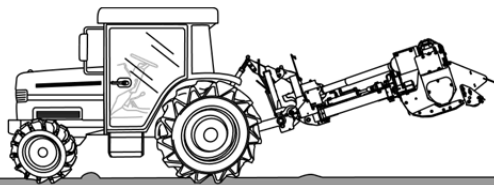
果樹園での作業は、幹や枝に頭や首をぶつけないように、前方に注意してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

カッティング軸を回転させる前に周囲を確認する

止まっているカッティング軸を回転させる前に、周りに人がいないか確認してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



⚠ 注意

異常が発生したら、すぐにエンジンを停止し、点検を行う

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
 - ・PTO 回転を止めても、10 秒以上の間、カッティング軸が回り続けるため、必ずカッティング軸の回転が止まっていることを確認してから、点検を行ってください。
- 【守らないと】他の部分へ損傷がひろがり、事故につながるおそれがあります。



あぜ、土手際での作業は、低速で余裕をもって運転する

あぜや土手、樹木の近くでは、作業機をぶつけないように、低速で余裕をもって運転してください。

【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。



オフセット操作は、必ず作業機をトラクタに取付けて、スタンドを取外した状態で行う

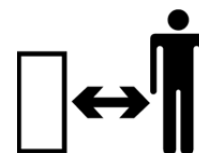
【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。



オフセット時は、周りに注意する

オフセット（作業時と移動時の位置変え）のときは、周りの人や物に注意して操作してください。

【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。



草やゴミを路上に落とさない

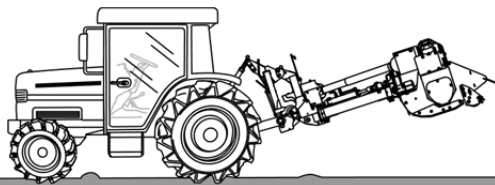
作業中や作業後に、草やゴミを路上に落とさないでください。

【守らないと】道路交通法違反になるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。

運搬時はスタンドを外す

スタンドを取付けた状態では、作業機をトラックなどに積んでの移動は行わないでください。

【守らないと】振動などにより、スタンドを損傷し、事故につながるおそれがあります。



1.3.5 保守・点検・調整時の注意事項

⚠ 警告

作業は、平らで安定した場所で行う

- ・交通の邪魔にならない場所で行ってください。
- ・作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- ・トラクタの車輪には車止めをしてください。

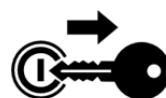
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業は、エンジンを停止して行う

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- ・PTO 回転を止めても、10 秒以上の間、カッティング軸が回り続けるため、必ずカッティング軸の回転が止まっていることを確認してから、作業を行ってください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックする

作業機が下がることを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



異常を見つけたら、速やかに修理する

変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



取外したカバー類は元どおりに取付ける

保守・点検・調整で取外したカバー類は、必ず取付けてください。

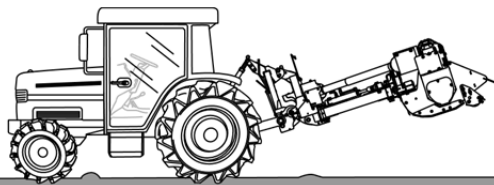
【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



カッティング軸を回転させる前に周囲を確認する

止まっているカッティング軸を回転させる前に、周りに人がいないか確認してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



⚠ 注意

目的に合った工具を正しく使用する

点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。



作業時は、厚手の手袋を着用し、手を保護する

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



1.3.6 格納時の注意事項

⚠ 注意

作業機単体の転倒防止をする

- ・必ず作業機を格納位置にし、スタンドを取付けて、転倒を防止してください。
- ・スタンドのキャスターにストッパをかけて、ころがり防止をしてください。

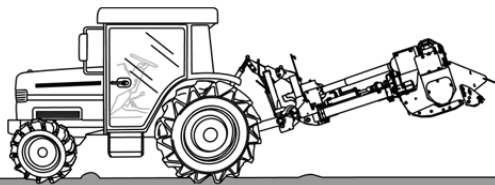
【守らないと】作業機の転倒などにより、傷害事故や作業機の損傷につながります。



トラクタから取外したカプラを作業機に取付けて格納しない (カプラ仕様)

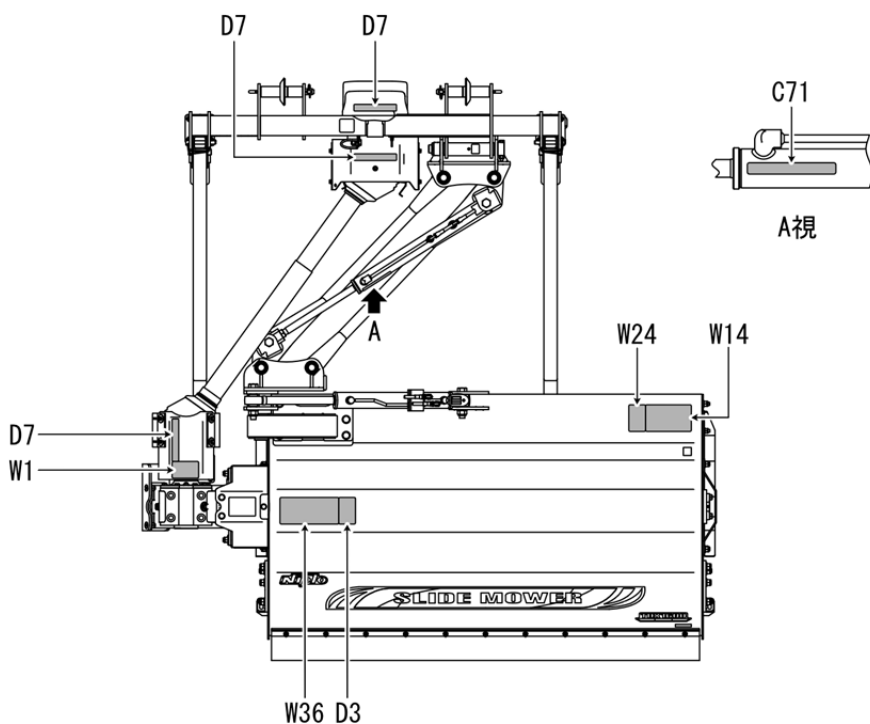
カプラをトラクタから取外した場合、取外したカプラを作業機に取付けて格納しないでください。

【守らないと】カプラが落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.4 警告ラベルの種類と位置

- 警告ラベルは図の位置に貼ってあります。よくお読みになり安全に作業をしてください。
- 警告ラベルは、汚れや土を落とし、常に見えるようにしてください。
- 警告ラベルを紛失または損傷された場合には、お買い上げいただいた購入先へ、型式および部品番号で注文してください。



D3 8750-315000



D7



8750-344000

W1 8750-316000



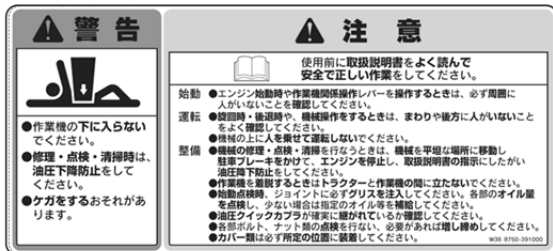
W14 8750-348000



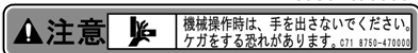
W24 8750-368000



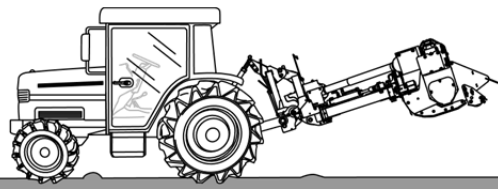
W36 8750-391000



C71



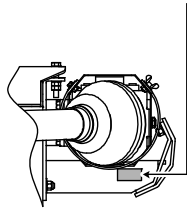
8750-470000



1.5 注意銘板とその他のラベルの種類と位置

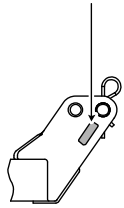
- 注意銘板とその他のラベルは図の位置に貼ってあります。
- 注意銘板とその他のラベルは、汚れや土を落とし、常に見えるようにしてください。
- 注意銘板とその他のラベルを紛失または損傷された場合には、お買い上げいただいた購入先へ、型式および部品番号で注文してください。

反射ステッカー白
M700-152000



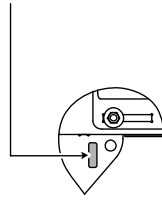
F視

吊位置ラベル
R514-163000



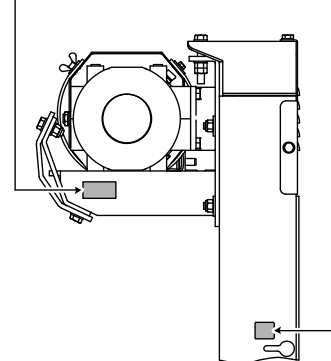
C視

吊位置ラベル
R514-163000



B視

反射ステッカー赤
M700-153000



A視

グリース注油銘板
L814-213000

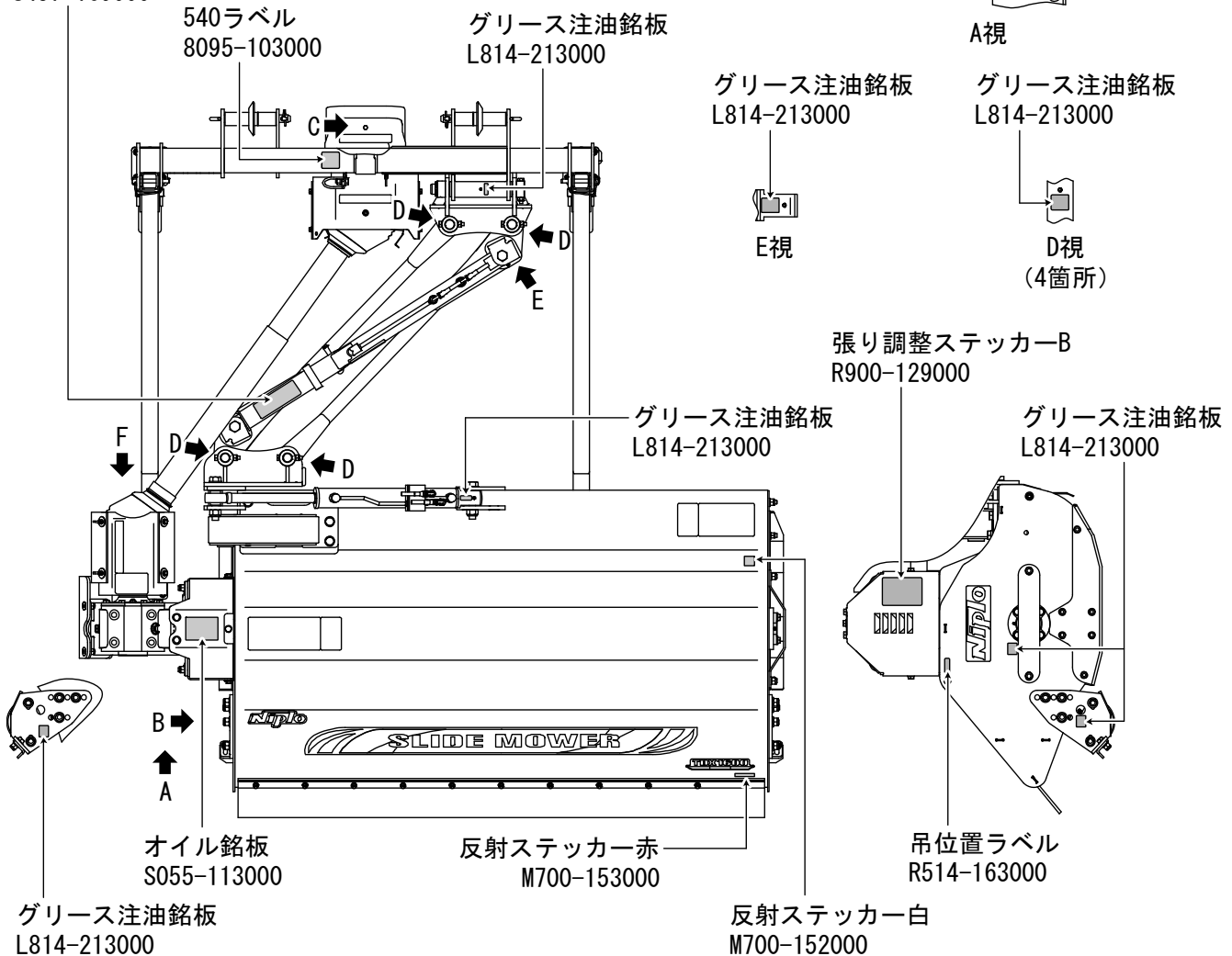
シリンダカバーラベル
S457-169000

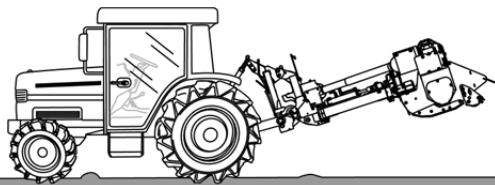
540ラベル
8095-103000

グリース注油銘板
L814-213000

グリース注油銘板
L814-213000

グリース注油銘板
L814-213000



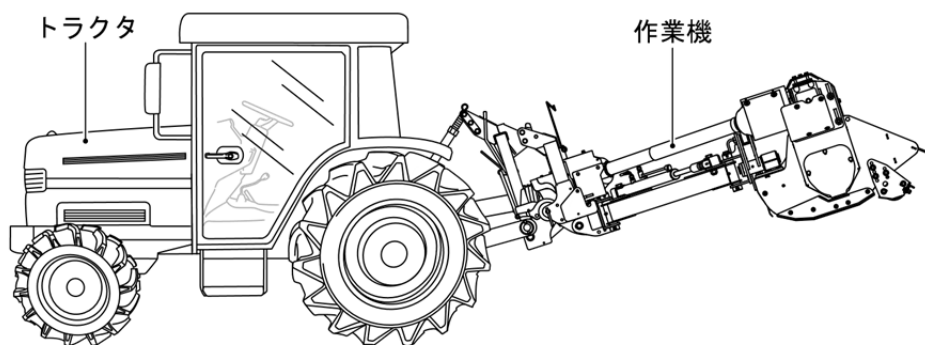


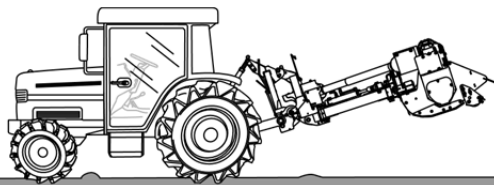
2 概要と各部の名称

2.1 概要

- 本作業機は、法面の草刈り、果樹園の下草刈り、雑草刈りに使用してください。
- 本作業機は、「標準3点リンク」で設計しています。他の規格では取付けができません。
- 本作業機は、決められた適応馬力で設計しています。適応トラクタ馬力の範囲内で使用してください。
(適応トラクタ馬力内であっても、トラクタ質量によっては取付けができない場合があります。)

2.2 トラクタとの関係



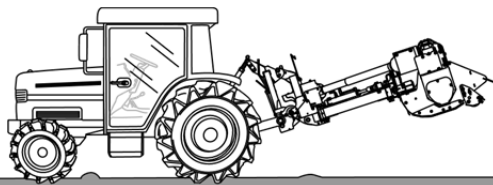


2.3 主要諸元

型式・区分		TDX1400			
		-1L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ Vベルト3本掛け			
機体寸法	全長 (mm)	2380 (格納時) 2550 (スタンド装着時)	2170 (格納時) 2290 (スタンド装着時)		
	全幅 (mm)	1960 (格納時)			
	全高 (mm)	1145 (作業時) 1230 (スタンド装着時)	1020 (作業時) 1230 (スタンド装着時)		
機体質量 (kg)		500	515 (EL61 カプラを含む)		475
作業幅 (cm)		143			
適応馬力 {kW(PS)}		36.8 (50) ~ 51.5 (70) ※質量 2,300 kg以上 3,800 kg以下			
フレール爪数 (本)		48			
カッピング軸回転数 (rpm)		(PTO 540rpm 時) 2020			
爪回転径 (cm)		40			
刈り高さ (cm)		0~12			
装着方式	種類	標準3点リンク直装	JIS標準オートヒッチ (I・II)		
	カプラ型式	—	EL61		—
	使用ジョイント	CRCV	CRCV-Z	CRCV	—
	呼称	1セット	4セット	3セット	0セット
適応油圧装置		複動2系統			
作業速度 (km/h)		2~5			
作業能率 (分/10a)		11~28			
刈り高さ調節		ボルト穴位置によるローラー上下調節 (3段階調整)、上下揺動機構によるポジション調節			
上下フリー機構		揺動範囲 15°			
最大オフセット量 (mm)		トラクタ中心より右へ 2200 (無段階)			
オフセット方法		油圧シリンダ、平行リンクによる平行移動機構			
傾斜角度		上方 70° ~ 下方 55°			
傾斜方法		油圧シリンダによる回動機構			

※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

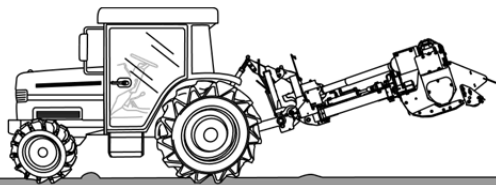
※ 機体質量には、スタンド (40kg) とジョイントを含みません。



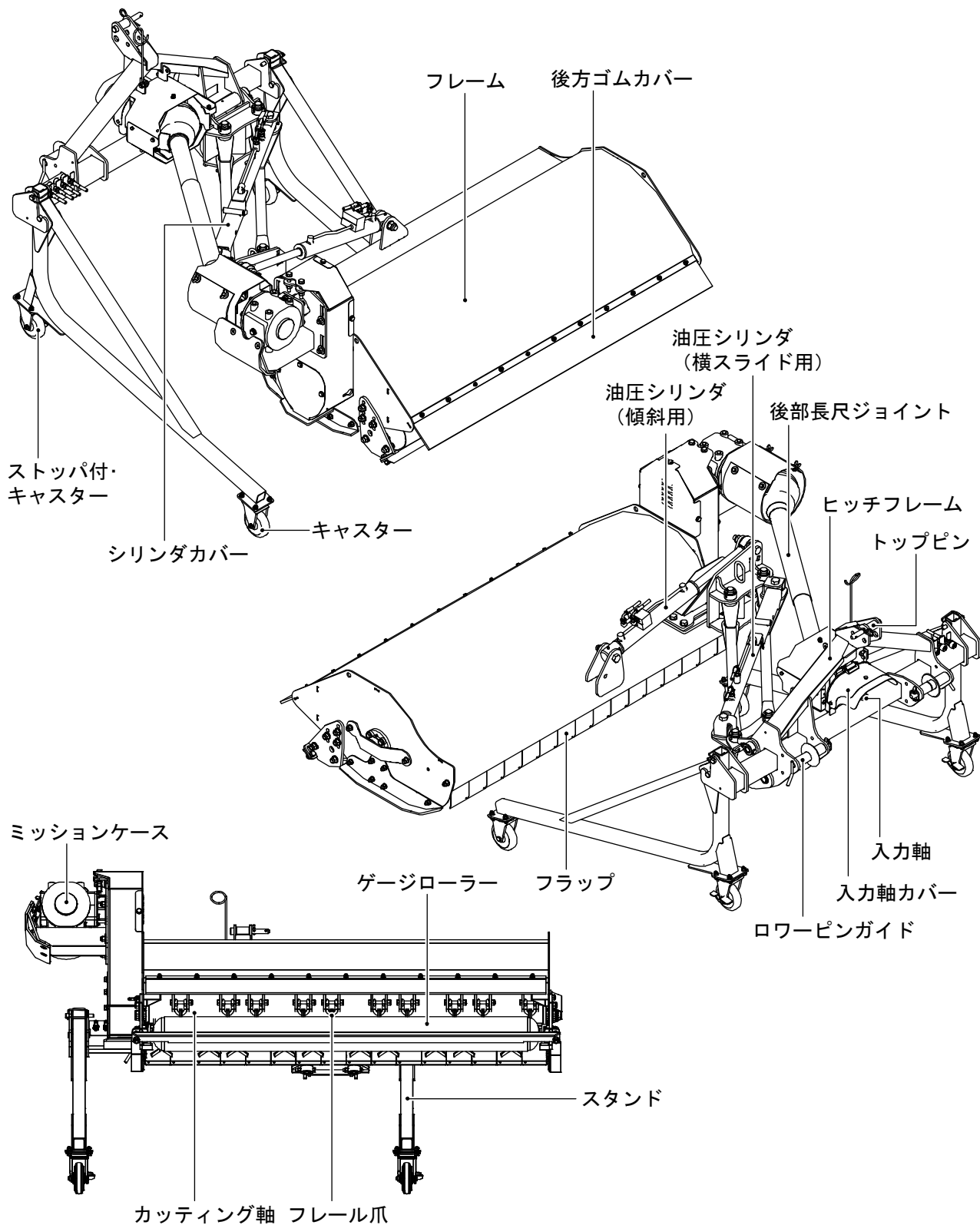
型式・区分		TDX1600			
		-1L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ Vベルト3本掛け			
機体寸法	全長 (mm)	2380 (格納時) 2550 (スタンド装着時)	2170 (格納時) 2290 (スタンド装着時)		
	全幅 (mm)	1960 (格納時)			
	全高 (mm)	1145 (作業時) 1230 (スタンド装着時)	1020 (作業時) 1230 (スタンド装着時)		
機体質量 (kg)		525	540 (EL61 カプラを含む)		500
作業幅 (cm)		163			
適応馬力 [kW(PS)]		51.5 (70) ~ 73.5 (100) ※質量 2,300 kg以上 3,800 kg以下			
フレール爪数 (本)		80			
カッティング軸回転数 (rpm)		(PTO 540rpm 時) 2020			
爪回転径 (cm)		40			
刈り高さ (cm)		0~12			
装着方式	種類	標準 3 点リンク直装	JIS 標準オートヒッチ (I・II)		
	カプラ型式	—	EL61		—
	使用ジョイント	CRCV	CRCV-Z	CRCV	—
	呼称	1 セット	4 セット	3 セット	0 セット
適応油圧装置		複動 2 系統			
作業速度 (km/h)		2~5			
作業能率 (分/10a)		10~25			
刈り高さ調節		ボルト穴位置によるローラー上下調節 (3 段階調整)、上下揺動機構によるポジション調節			
上下フリー機構		揺動範囲 15°			
最大オフセット量 (mm)		トラクタ中心より右へ 2700 (無段階)			
オフセット方法		油圧シリンダ、平行リンクによる平行移動機構			
傾斜角度		上方 70° ~ 下方 55°			
傾斜方法		油圧シリンダによる回動機構			

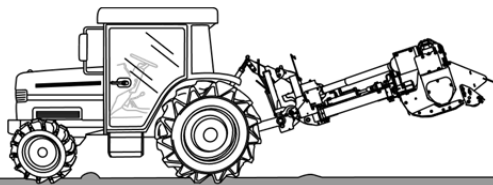
※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

※ 機体質量には、スタンド (40kg) とジョイントを含みません。



2.4 各部の名称





3 製品の確認

1組ごとに厳重な検査をしたうえで出荷していますが、輸送中の損傷、物品の欠品、およびその他の異常の可能性も皆無ではありません。次表の事項も含めて確認してください。

もし、問題があった場合は、お買い上げいただいた購入先へ連絡してください。

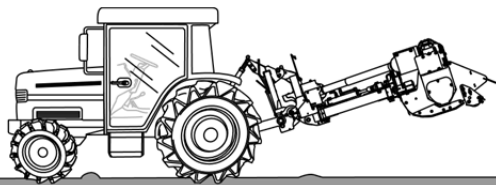
確認箇所	確認方法
ご注文の品物かどうか	「13.2.2 ネームプレート」(55 ページ)を参照し、ネームプレートで確認
ネームプレート、警告ラベルが剥がれていないか	「1.4 警告ラベルの種類と位置」(13 ページ)、 「13.2.2 ネームプレート」(55 ページ)を参照し、目視によるチェック
損傷はないか	目視による外観チェック
取扱説明書、保証書、スタンド	目視によるチェック

4 取付ける前に

4.1 トラクタの規格

- (a) 作業機の3点リンク規格は、「標準3点リンク直装」と「JIS標準オートヒッチ」を採用しています。
- (b) 「標準3点リンク直装」は、3点リンクとジョイントを手で取付けます。
- (c) 「JIS標準オートヒッチ」は、さらに4セット、3セット、0セットの3種類に分かれます。
 - 「4セット」 3点リンクとジョイントが同時に自動で取付けできます。
 - 「3セット」 3点リンクのみ自動で、ジョイントは手で取付けます。
 - 「0セット」 お手持ちの4セットシリーズ作業機と共用するため、クラブおよびジョイントは標準装備していません。
- (d) 3点リンク規格の判別は、型式の末尾で行ってください。

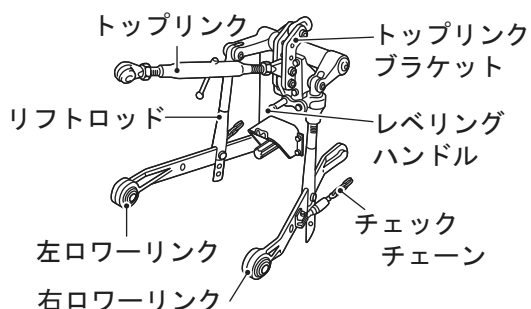
形式末尾	3点リンク規格	呼称
-4L	JIS標準オートヒッチ	4セット
-3L		3セット
-0L		0セット
-1L	標準3点リンク直装	1セット



4.2 トラクタの準備

⚠ 注意

- **トラクタの取扱説明書をよく読んでください。**
【守らないと】 取付けができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながったりするおそれがあります。



4.2.1 4L/3L/0L シリーズ

- カプラは「標準 3 点リンク規格」です。トラクタの 3 点リンクも標準 3 点リンクでないと取付けできません。
- 作業機の上がり量、下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付穴位置を上下の穴に移して、調整してください。
 - ・上の穴は上がり量が増えます。
 - ・下の穴は下がり量が増えます。

4.2.2 標準 3 点リンク直装 (1L シリーズ)

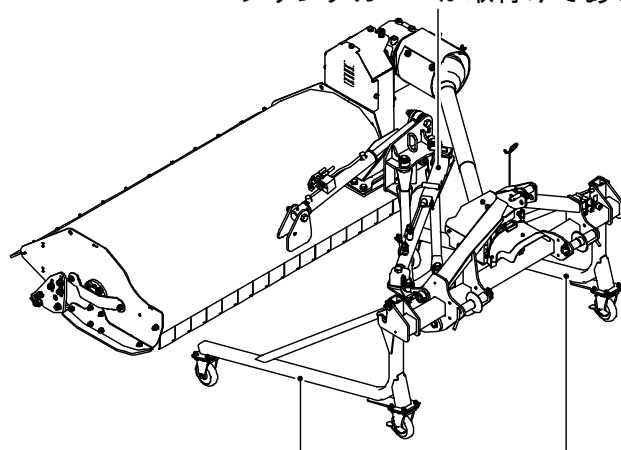
- 作業機の上がり量、下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付穴位置を上下の穴に移して、調整してください。
 - ・上の穴は上がり量が増えます。
 - ・下の穴は下がり量が増えます。

4.3 装着姿勢の確認

作業機にスタンドが取付けてある状態がトラクタへの装着姿勢です。

装着姿勢でない場合は、お買い上げいただいた購入先へ連絡してください。

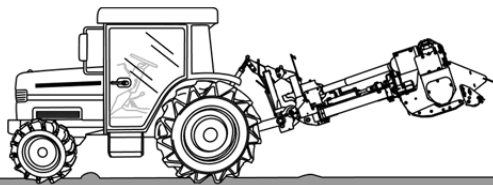
シリンダカバーが取付けてある



スタンドが取付けてある

⚠ 注意

- **スタンドを取付けた状態では、作業機をトラックなどに積んでの移動は行わないでください。**
【守らないと】 振動などにより、スタンドを損傷し、事故につながるおそれがあります。

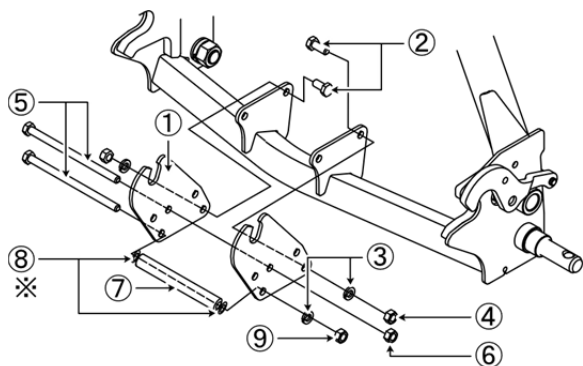


4.4 カプラの準備

4セットの場合はジョイントのダンボール箱に入っている、サポートプレートとボルト (M12×200 7T) を次図のように取付けます。

注 記

- ・ 3セットの場合、サポートプレートは付いていません。



※EL51/EL52/EL53カプラに装着する場合、
⑧平座金 M12を入れます。

番号	部品名	数量
①	サポートプレート	2
②	ボルト M12×30 7T	2
③	ばね座金 M12	3
④	ナット M12	2
⑤	ボルト M12×200 7T	2
⑥	センターロックナット M12	1
⑦	カラー156	1
⑧	平座金 M12	2
⑨	ナット M12 3 シュ	1
EL60 サポートプレート ASSY		部品番号 R726 901000

5 取付けについて

5.1 取付けの注意事項

⚠ 危険

- 取外したトラクタの PTO 軸カバー、作業機の入力軸カバーを元どおりに取付けてください。
【守らないと】巻き込まれて死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 平らで固い場所を選び、いつでも危険を避けられる態勢で行ってください。
- 作業機を取付けるときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

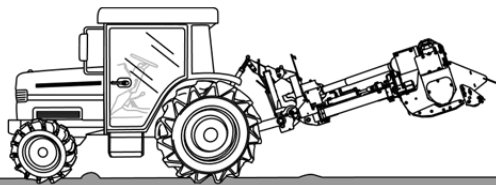
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

- トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、前輪分担荷重が全重の 25% 以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。
- トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。

⚠ 注意

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
【守らないと】取付けができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながったりするおそれがあります。



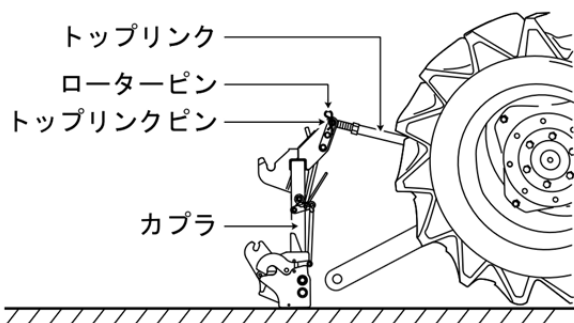
5.2 カプラの取付け

- 1** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作し、ローリンクを最下げにします。



- 2** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

- 3** トップリンクピン（トラクタ付属）で、カプラをトラクタのトップリンクに取付けます。



⚠ 注意

- 必ずローターピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

- 4** 左右のローリンクをカプラのローワーピンに取付けます。

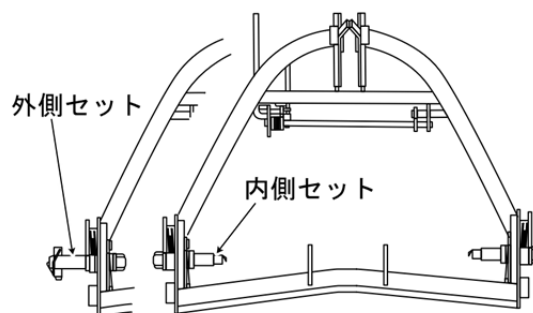
⚠ 注意

- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

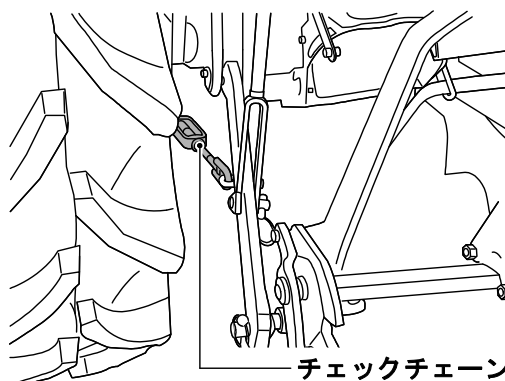
注 記

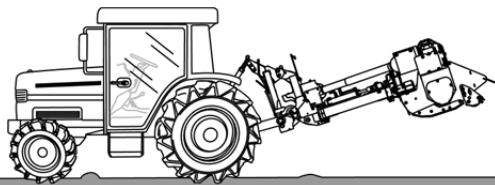
- ・ 内側セットと外側セットができます。トラクタの3点リンク規格に合わせてください。

	内側セット	外側セット
EL カプラ	JIS 1	JIS 2



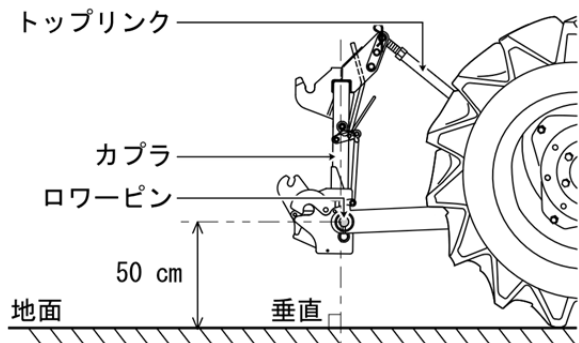
- 5** トラクタの中心に合わせて、左右均等に 10～20 mm 振れるように、チェックチェーンで振れ止めをします。





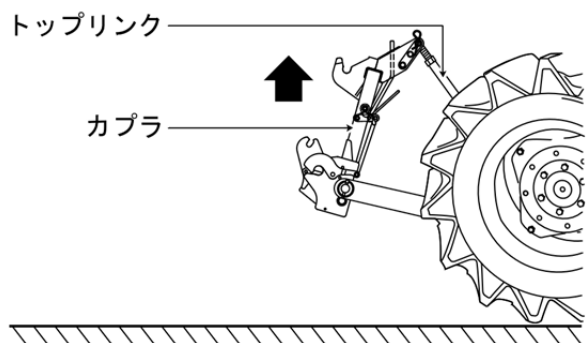
6

ローワーピンの地上高が次図のとき、カプラが垂直になるようにトップリнкの長さを調整します。



7

取付け終了後、カプラを手で持ち上げてトップリнкなどが干渉しないことを確認します。



注 記

- ・ 干渉する場合は、トップリнкをトラクタ側は1穴上に、また、作業機側は1穴下に取付けると、カプラがトラクタから離れます。

5.3 ジョイントの取付け

警告

- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

重要

- ・ トラクタの型式に適応した長さのジョイントを使用してください。

長すぎるとトラクタの PTO 軸が作業機の入力軸を突きます。短いと、ジョイントのかみ合いが少なくなり損傷する原因になります。

- ・ 必ず広角側（インナー側）をトラクタ側（PTO 軸）にセットしてください。

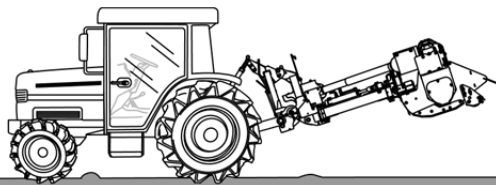
反対に装着するとトラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

もし損傷しても保証の対象にはなりません。

- ・ 出荷時、入力軸には入力軸キャップが取付けてあります。ジョイントを取付ける前に、必ず取外してください。

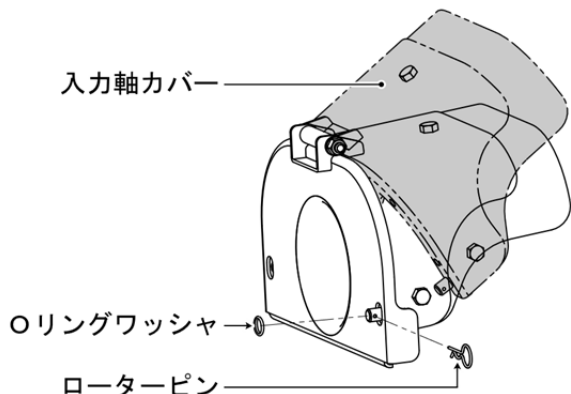
作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

ジョイントの長さは、装着するトラクタの型式により異なります。ご注文時にトラクタの型式をお知らせいただければ、その型式に適応した長さのジョイントが付属されます。型式が不明な場合は、標準の長さのジョイントが付属されます。



注記

- ・ ジョイントは、入力軸カバーを外さなくても取付け・取外しができます。
右側1箇所のローターピンを抜き、入力軸カバーを上向きにしてください。
- ・ ジョイントを取付けたあとは、入力軸カバーを元に戻してください。



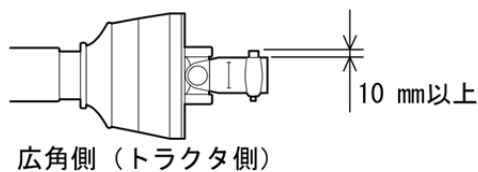
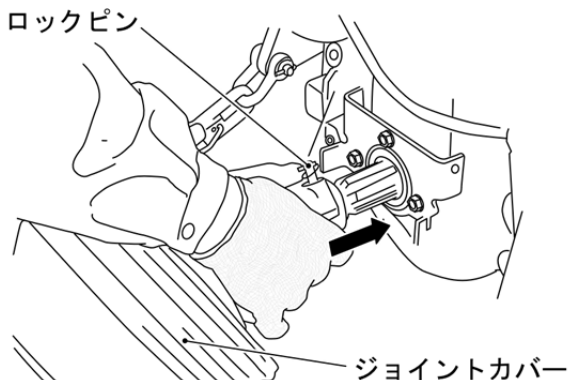
5.3.1 4L シリーズ

1

- ジョイントの4セット側をサポートプレートの上のせ、反対側のロックピンを押しながら、トラクタ側(PTO軸)に取付けます。
- ・ 取付け後、ロックピンの頭が10 mm 以上出ていることを確認してください。
 - ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。

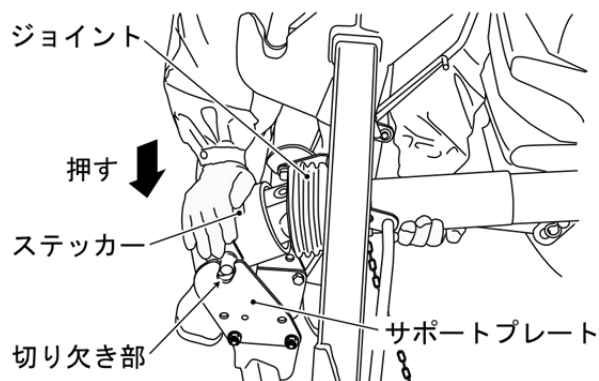
重要

- ・ ハンマーなどでジョイントをたたき、強引に入れしないでください。
ジョイントを損傷する原因になります。



2

- 4セット側のステッカー一面を上にして、ジョイントを折りながらサポートプレートの切り欠き部に押し込みます。



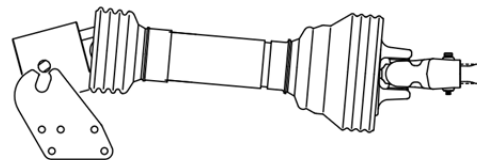
⚠ 注意

- 手は図の位置とし、はさまないように注意してください。
【守らないと】ケガをするおそれがあります。

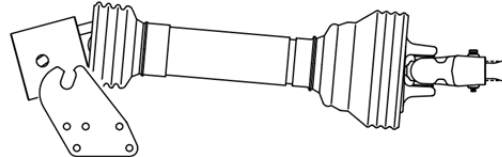
重要

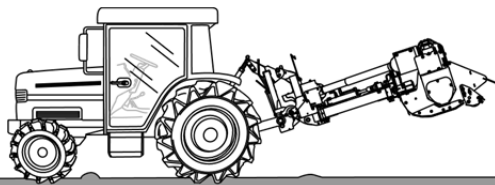
- ・ ジョイントが長くてサポートプレートに取付けできないときは、無理に取付けしないでください。
トラクタや作業機を損傷する原因になります。

■ 良い例



■ 悪い例





ジョイントが長くてサポートプレートに取付けできないときは、長い分を切断します。
「5.3.3 切断方法」(26 ページ) を参照してください。

注 記

- ・ ジョイントの長さは、次表の範囲内で使用してください。
- ・ 最少ラップ (インナー、アウターの重なり) は 88 mm 確保しています。
- ・ ジョイントが短い場合は、交換してください。

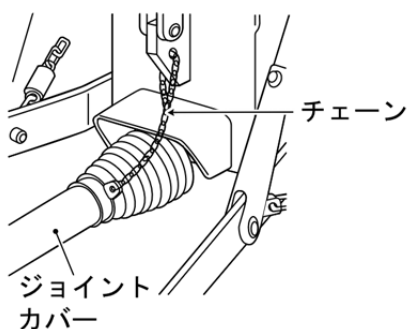
種類	ジョイント型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
4 セ ッ ト ジ ョ イ ン ト	CRCV-Z752	750	750~849
	Z802	800	800~949
	Z822	825	825~980
	Z852	850	850~1049
	Z902	900	900~1149
	Z952	950	950~1249

3

ジョイントカバーのチェーンを、トラクタの3点リンクが上下しても動かない場所につなぎます。

注 記

- ・ 3点リンクを上下しても引っ張られないようにたるみを持たせてください。



5.3.2 3L シリーズ/ 標準 3 点リンク直装 (1L シリーズ)

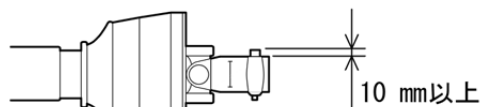
1

作業機をトラクタに取付けます。
「5.4 トラクタへの取付け」(27~30 ページ) を参照してください。

2

ジョイントの広角側 (インナー側) を、ロックピンを押しながらトラクタ側 (PTO 軸) にはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。



広角側 (トラクタ側)

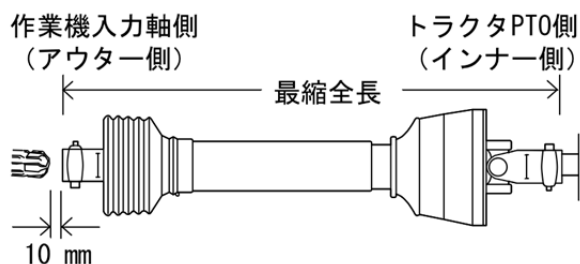
3

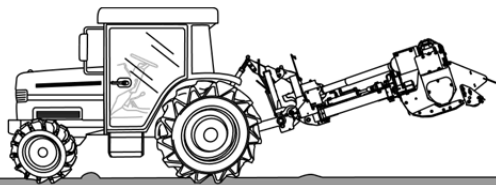
ジョイントをいっぱい縮め、ジョイントの先端と作業機入力軸 (アウター側) との間に 10 mm 以上の隙間があれば、そのままロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。

ジョイントの先端と入力軸との間に隙間がない場合は、長い分を切断します。

「5.3.3 切断方法」(26 ページ) を参照してください。





注 記

- ・ ジョイントの長さは、次表の範囲内で使用してください。
- ・ 最少ラップ（インナー、アウターの重なり）は 88 mm 確保しています。
- ・ ジョイントが短い場合は、交換してください。

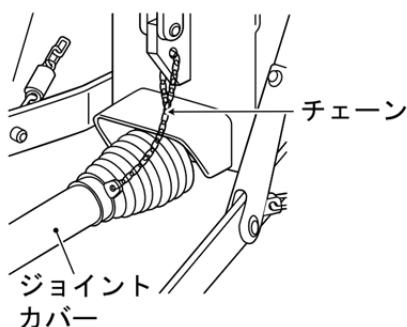
種類	ジョイント 型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
広角 ジョイント	CRCV-2	704	704~785
	760	759	759~895
	3	809	809~995
	4	909	909~1195

4

ジョイントカバーのチェーンを、トラクタの 3 点リンクが上下しても動かない場所につなぎます。

注 記

- ・ 3 点リンクを上下しても引っ張られないようにたるみを持たせてください。



5.3.3 切断方法

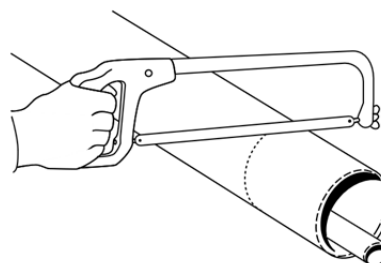
⚠ 注意

- 高速カッタを使用するときは、十分注意して作業を行ってください。

【守らないと】高速カッタは回転が速く、ケガをす
るおそれがあります。

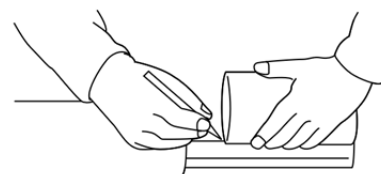
1

ジョイントカバーを、長い分だけ切り取ります。（インナー側・アウター側両方を切り取ります）



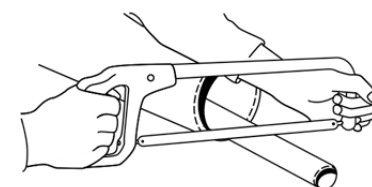
2

切り取ったジョイントカバーと同じ長さを、シャフトの先端から測ります。（インナー側・アウター側両方を、それぞれ切り取った長さで測ります）



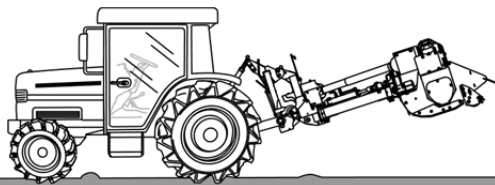
3

シャフトを高速カッタや金ノコで切断します。（インナー側・アウター側両方を、それぞれ測った長さで切断します）



4

切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、グリースを塗り、インナー側・アウター側を組み合わせます。



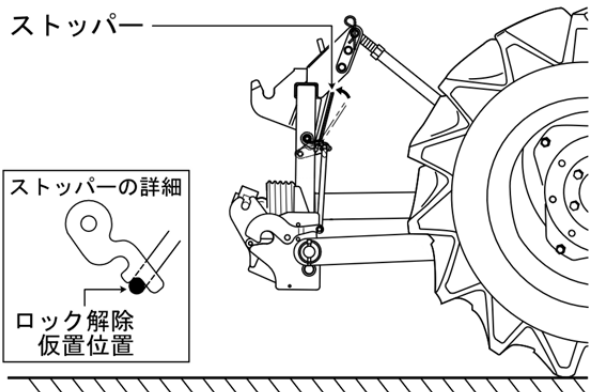
5.4 トラクタへの取付け

5.4.1 4L/3L シリーズ

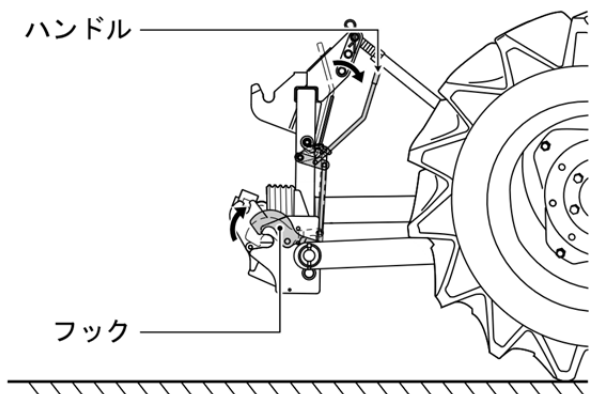
ここでは、4セットを中心に説明します。
4セットと3セットの違いは、ジョイントの取付けが自動か、手で取付けるかです。

1 作業機が装着姿勢であることを確認します。
(「4.3 装着姿勢の確認」(20 ページ)を参照してください)

2 ストッパーを引き上げ、カブラのハンドルのロックを解除します。

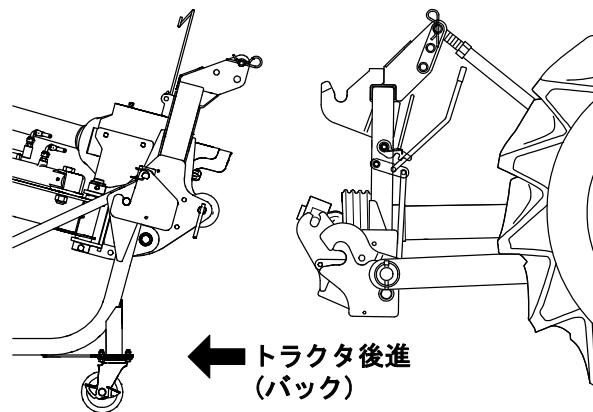


3 カブラのハンドルを引き、フックを解除します。



4 トラクタのエンジンをかけます。

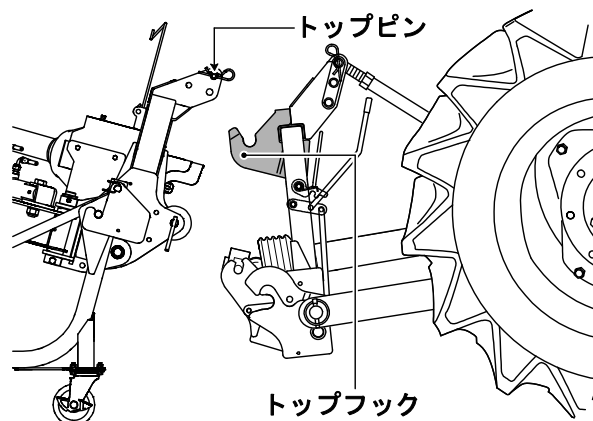
5 トラクタを作業機を中心に合わせ、まっすぐバックさせます。

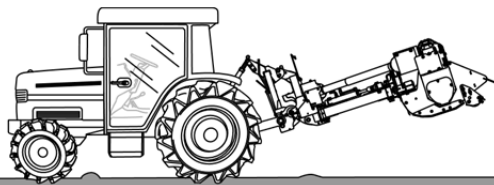


6 トラクタの作業機昇降レバー (油圧レバー) を下げて、カブラのトップフックを作業機のトップピンの下へくぐらせます。

注 記

- ・ トラクタと作業機が合うまで繰り返してください。
- ・ 合わせづらいときは、作業機を動かして合わせるのも1つの方法です。





7

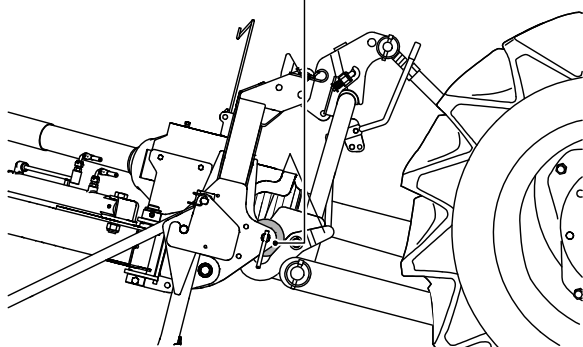
トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）をゆっくり上げて、トップフックでトップピンをすくい上げます。



作業機のローアピンガイドがカブラに入ります。

- a) 4 セットは、同時にジョイントが自動装着されます。
- b) 3 セットは、あとから手でジョイントを取付けます。

ローアピンガイド



注 記

- ・ フックが当たったり、ジョイントが入らなかつたりする場合は、トラクタの油圧を下げて作業機を外し、始めからやり直してください。
- ・ 作業機が左右に傾いているときは、トラクタの右側リフトロッドの長さを調節し、作業機の傾きにカブラの傾きを合わせてから取付けを行ってください。

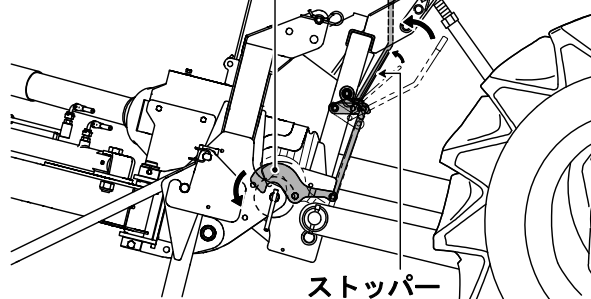
8

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

9

カブラのストッパーを引き上げてハンドルのロックを解除し、ハンドルを押してローアピンガイドをフックで固定します。

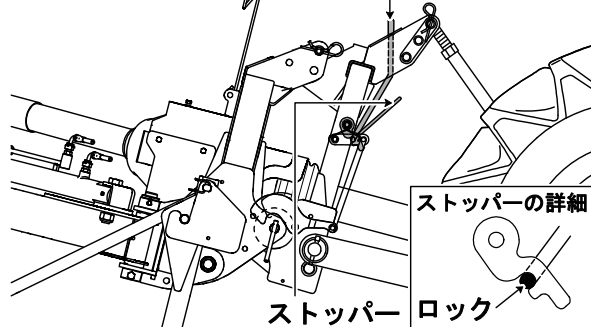
フック ハンドル



10

カブラのストッパーでハンドルをロックします。

ハンドル

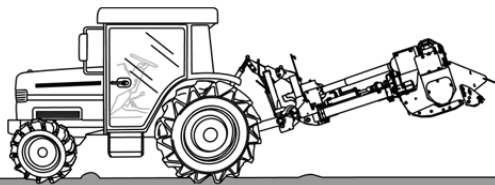


注意

- 必ずストッパーをかけ、ハンドルをロックしてください。
- 【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。

11

スタンドを取外します。



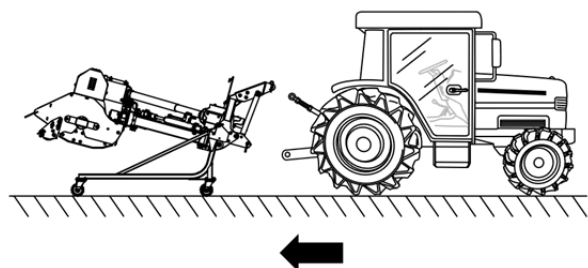
5.4.2 標準 3 点リンク直装 (1L シリーズ)

1 作業機が装着姿勢であることを確認します。
(「4.3 装着姿勢の確認」(20 ページ) を参照してください)

2 トラクタを作業機の中心に合わせ、まっすぐ後進させます。

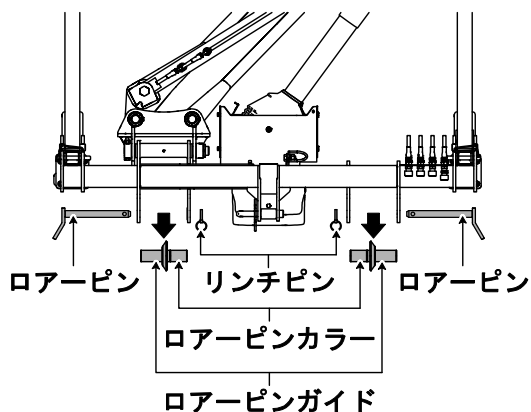
注 記

- ・ トラクタと作業機の中心が合うまで繰り返ししてください。
- ・ 合わせづらいときは、作業機を動かして合わせるのも1つの方法です。



3 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

4 作業機のローアピンガイドとローアピンカラーを取外します。



5 作業機の左ヒッチアームにトラクタの左ローリンクを取付けます。

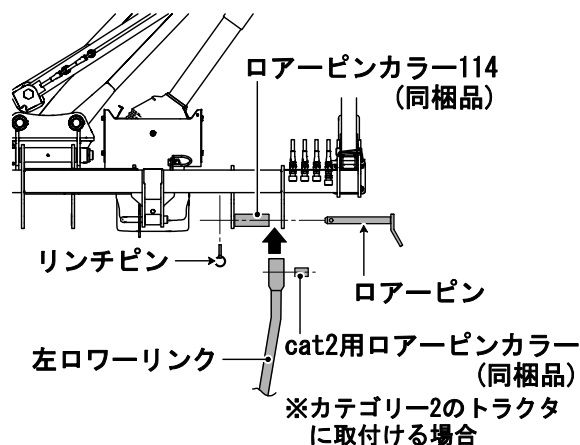
⚠ 注意

- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。

【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

注 記

- ・ カテゴリー2のトラクタに取付ける場合は、cat2用ローアピンカラー (同梱品) を入れてください。

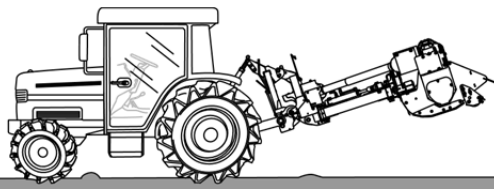


6 作業機の右ヒッチアームにトラクタの右ローリンクを取付けます。

⚠ 注意

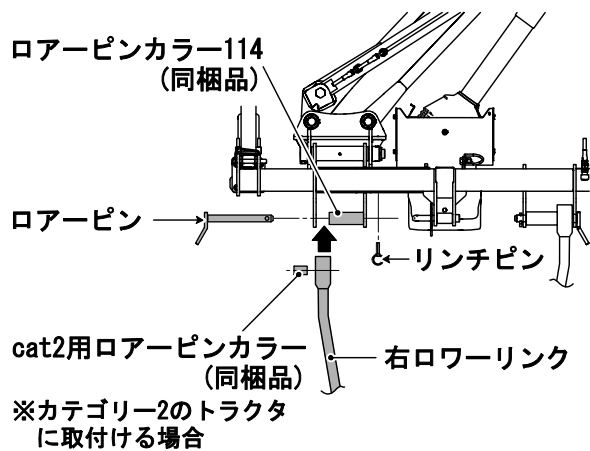
- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。

【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



注 記

- ・ カテゴリー2のトラクタに取付ける場合は、cat2用ローアピンカラー（同梱品）を入れてください。
- ・ 高さが合わないときは、トラクタのレベルリングハンドルを回し、リフトロッドの長さを調整して取付けてください。



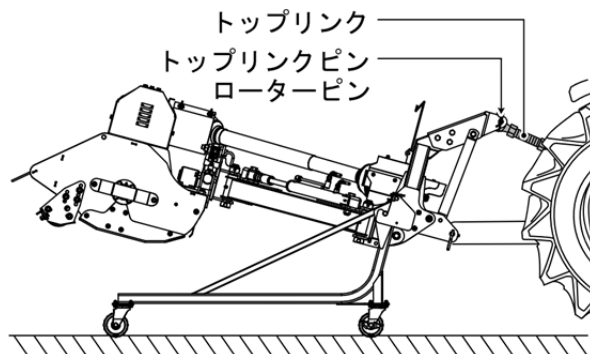
- 7** 作業機のマストにトラクタのトップリンクを取付けます。

注意

- 必ずローターピンで抜け止めをしてください。
- 【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

注 記

- ・ 位置が合わないときは、トップリンクの長さを調節してください。



8

トラクタのエンジンをかけます。

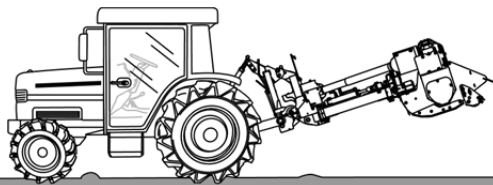
9

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げて、作業機をゆっくり上げます。



10

スタンドを外します。



6 調整について

6.1 調整時の注意事項

⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- 作業機を調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- PTO 回転を止めても、10 秒以上の間、カッティング軸が回り続けるため、必ずカッティング軸の回転が止まっていることを確認してから、調整を行ってください。
- 変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 厚手の手袋を着用し、手を保護してください。
- 【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

6.2 水平調整

注 記

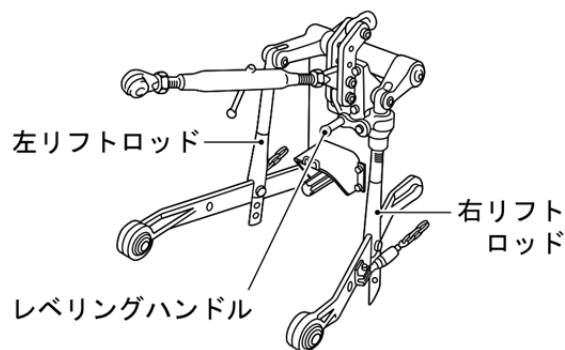
- ・ トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

6.2.1 自動水平装置付トラクタ

作業機の左右がトラクタに対して水平になるように調整します。

6.2.2 自動水平装置のないトラクタ

トラクタのレベリングハンドルを回して、右リフトロッドの長さを調整します。

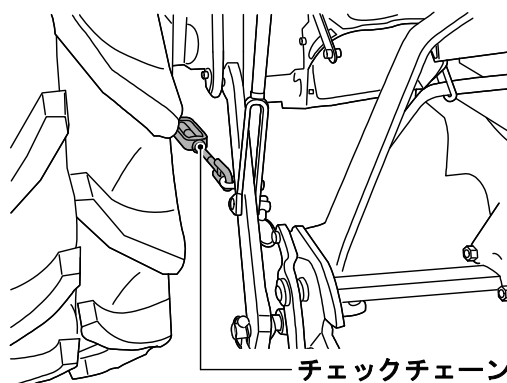


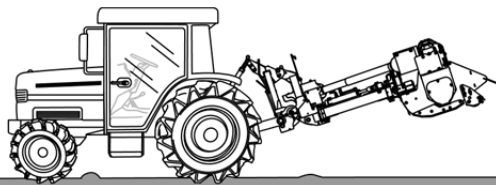
6.3 チェックチェーンの調整

トラクタの中心（PTO 軸）と作業機の中心（入力軸）を一直線に合わせ、左右均等に 10～20 mm 振れるように、チェックチェーンを張ります。

注 記

- ・ 石の多いほ場では、ややゆるく張ってください。





6.4 最上げ位置の調節

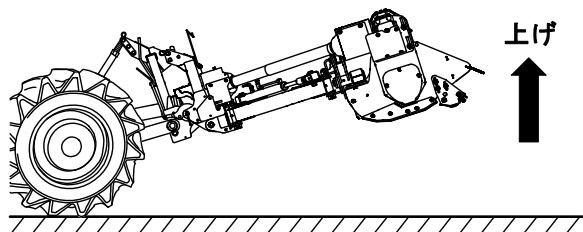
重要

- ・ トラクタによっては、スイッチで最上げまで自動上昇する機種があります。作業機が勢いよく上がるため、トラクタと作業機との間隔を 100 mm 以上開けるように上げ規制をしてください。
- ・ キャビン付きトラクタの場合は、トラクタ背面のガラスを突き上げないように注意してください。
- ・ 最上げ状態で、トラクタの水平装置を手動で操作する場合は、トラクタに干渉しないように注意してください。
- ・ トラクタ背面のガラスを開いたままで作業機を持ち上げないでください。
- ・ 上げ高さ規制をかけた状態であっても、トラクタの水平装置を操作すると、上げ高さ規制よりもさらに上昇する場合があるため、フェンダーなどに注意してください。

トラクタや作業機の損傷につながります。

1

PTO を回転させながらゆっくり作業機を上げ、振動や異音の出ない位置で作業機昇降レバー（油圧レバー）を止めます。

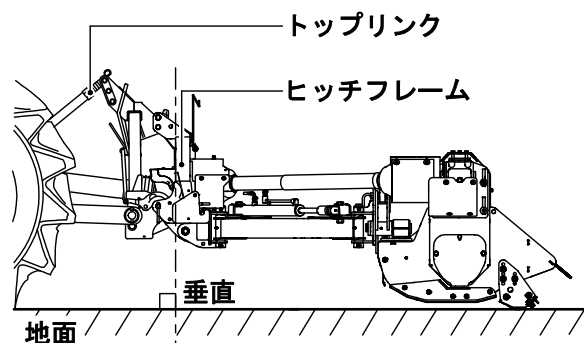


2

作業機昇降レバー（油圧レバー）を、上げ高さ規制ストッパで固定します。

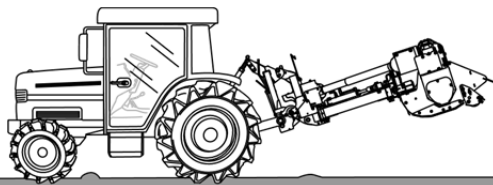
6.5 前後角度調整

作業位置でヒッチフレームが垂直となるようにトップリンクの長さを調整します。



注記

- ・ トラクタによっては、若干の前傾・後傾の調整が必要な場合があります。
- ・ 極端な前傾・後傾は、作業機の振動や異音発生の原因になります。また、作業性能も損なうおそれがあります。
- ・ トップリンクが作業中にゆるむことがないように必ずロックしてください。



7 作業前の点検

⚠ 警告

- 交通の邪魔にならない場所で行ってください。
- 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- トラクタの車輪には車止めをしてください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 作業機が下がることを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。
- 変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

- 保守・点検・調整で取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 止まっているカッティング軸を回転させる前に、周りに人がいないか確認してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。

- 厚手の手袋を着用し、手を保護してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

重要

- ・ PTO のクラッチをつなぐときは、必ずエンジンをアイドリング状態にしてください。
- ・ PTO のクラッチをつなぐときは、ゆっくりとつないでください。カッティング軸の回転が安定してから、少しずつエンジンの回転数を上げてください。

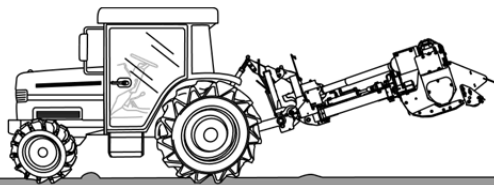
過大な負荷がかかり、機械を損傷するおそれがあります。

注 記

- ・ 止まっているカッティング軸を回転させる前に、必ず作業機を水平にしてください。フレール爪が側板に当たり、正常に回転しないことがあります。

作業機の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず作業前の始業点検を行ってください。

- (1) ミッションケースのオイル量・オイル漏れの点検と交換
「11.4 オイル量の点検と交換」(46~47 ページ)を参照してください。
- (2) 各部の損傷、ボルト・ナットのゆるみ点検
「11.2 ボルト・ナットのゆるみ点検」(45 ページ)を参照してください。
- (3) Vベルトの張り具合の点検
「11.6 Vベルトの調整」(48~50 ページ)を参照してください。
- (4) ジョイントのグリース点検、補充
「11.3 ジョイントの給油」(46 ページ)を参照してください。
- (5) グリースニップルへのグリース補充
「11.5 グリースの補充」(47~48 ページ)を参照してください。
- (6) ピン止め輪(E形止め輪)・Rピン、割ピンの点検
- (7) フレール爪の締付ボルトの点検
「11.7 フレール爪の点検と交換」(51 ページ)を参照してください。



8 油圧取出し

8.1 油圧取出しの注意事項

⚠ 警告

- 平らで固い場所を選び、いつでも危険を避けられる態勢で行ってください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

- コネクターは確実に接続してください。

【守らないと】作動油が噴き出し、目や口に入り、人体に悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠ 注意

- 作業機の油圧ホースをトラクタの外部油圧取出口に取付ける際、接続部に顔を近づけないでください。

【守らないと】作動油が噴き出し、目や口に入り、人体に悪影響をおよぼすおそれがあります。

- 油圧ホースは、結束バンドが付いている側を、外部油圧取出口の逆止弁付きポート側に接続してください。

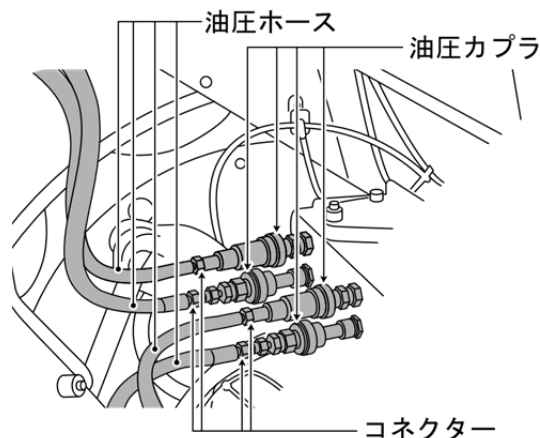
【守らないと】作業機が少しずつ外側へスライドしてしまい、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。

8.2 油圧取出しのしかた

8.2.1 外部油圧取出口と油圧ホースの接続

注 記

- ・ 油圧カプラはトラクタの型式ごとに異なります。作業機には標準装備していませんので、お買い上げいただいた購入先で別途お買い求めください。



◆油圧ホースと油圧カプラの接続

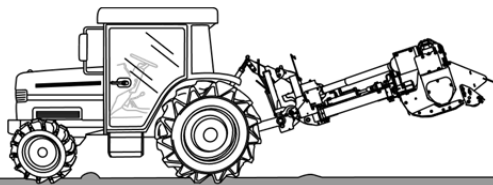
コネクター（付属品）と油圧カプラ（別売品）を、作業機本体から出ている4本の油圧ホースにそれぞれ接続します。

重要

- ・ 接続部をきれいにふき、ゴミが入らないようにしてください。
作動不良の原因になります。

注 記

- ・ 油圧カプラとコネクター間は、ねじサイズ、シール方法などが様々です。
油圧カプラに合わせた変換コネクター、シールテープが必要です。
- ・ 油圧ホースとコネクター間は、シールテープなどは一切不要です。



◆トラクタとの接続

重要

- ・ 接続部をきれいにふき、ゴミが入らないようにしてください。

作動不良の原因になります。

- ・ 油圧の作動油は、きれいなものを規定量使用してください。

汚れているとバルブがつまる原因になります。

1

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

2

トラクタの外部油圧コントロールレバーを上下または左右に3、4回動かして、トラクタの外部油圧配管内の圧力を抜きます。

注 記

- ・ 外部油圧コントロールレバーの操作方法は、トラクタメーカーにより異なります。詳細はトラクタの取扱説明書を参照してください。

3

作業機本体から出ている4本の油圧ホースを、それぞれ油圧カプラを介して、トラクタの外部油圧取出口に接続します。

注 記

- ・ シリンダ伸側の油圧ホース（結束バンドの付いた方）を、外部油圧取出口の逆止弁付ポート側に接続してください。ポートの区別が不明な場合は、トラクタの外部油圧コントロールレバーが操作しやすいように接続してください。
- ・ 外部油圧取出口は、トラクタメーカーにより異なります。詳細はトラクタの取扱説明書を参照してください。
- ・ 油圧ホース内に圧力がかかり、油圧カプラが外部油圧取出口に入らない場合は、スタンドを外した作業機を地面に接地させて油圧ホース内の圧力を抜いてください。

4

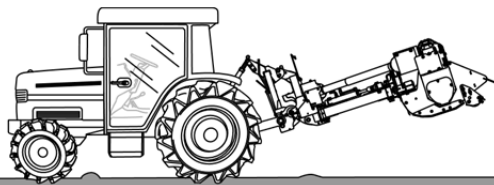
トラクタのエンジンをかけます。

5

外部油圧コントロールレバーゆっくりと操作して、作業機の動きを確認します。

注 記

- ・ 想定していた動作と実際の動作が違う場合は、手順 1 からやり直して、油圧ホースの接続を左右入れ替えてください。



9 移動・ほ場への出入りと作業

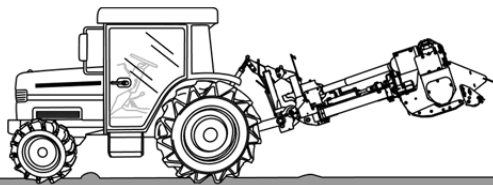
9.1 移動・作業時の注意事項

⚠ 警告

- 急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしないでください。
 - 運転者以外の人や物をトラクタや作業機に乗せて運ばないでください。
 - トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
 - トラクタに作業機が付いていると、後ろが長く、横幅が広がります。周囲の人や物に注意して走行してください。
 - あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用して、地面に接しない程度に作業機を下げ、重心を低くしてください。
 - 両側に溝や傾斜のある農道を通るときは、特に路肩に注意してください。軟弱な路肩、草の茂ったところは通らないでください。
 - ほ場への出入りは、必ずあぜと直角に行ってください。
 - 作業は平坦な場所で行ってください。傾斜地での作業は、転倒のおそれがあり大変危険です。
 - 作業機を調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
 - PTO 回転を止めても、10 秒以上の間、カッティング軸が回り続けるため、必ずカッティング軸の回転が止まっていることを確認してから、調整を行ってください。
 - 移動（前進・後進）するときは、必ずトラクタの PTO 変速レバーを「中立」の位置にしてください。
 - 果樹園での作業は、幹や枝に頭や首をぶつけることがないように、前方に注意してください。
- 【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
【守らないと】何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。
- 積込み、積降しをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
- 使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めの付いているものを選んでください。長さの目安は荷台高さの 4 倍、またはあぜや段差の 4 倍です。
【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。
- 急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなります。前輪分担荷重が全重の 25% 以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。
- トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。
- 作業機は、絶対に素手で触れたり、足でけったりしないでください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機の損傷につながるおそれがあります。
- 作業機やトラクタに巻き付いた草などを取除くときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- PTO 回転を止めても、10 秒以上の間、カッティング軸が回り続けるため、必ずカッティング軸の回転が止まっていることを確認してから、巻き付きを外してください。
【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。



⚠ 警告

- 止まっているカutting軸を回転させる前に、周りに人がいないか確認してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- トラクタに作業機を装着した状態では、「道路運送車両法の保安基準」を満たしていなければ道路走行することはできません。トラクタと作業機の組み合わせごとに「保安基準」を満たしていることの確認が必要です。

【守らないと】道路運送車両法違反となります。また、事故を引き起こすおそれがあります。

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

- 異常が発生したら、すぐにエンジンを停止し、点検を行ってください。

【守らないと】他の部分へ損傷がひろがり、事故につながるおそれがあります。

- あぜや土手、樹木の近くでは、作業機をぶつけないように、低速で余裕をもって運転してください。

【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。

- トラクタを後退させて作業をしないでください。

【守らないと】機械が損傷します。

- 作業中や作業後に、草やゴミを路上に落とさないでください。

【守らないと】道路交通法違反になるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。

重要

- ・ ほ場内で移動（前進・後進）する前に、作業機を地表面から 30 cm 以上持ち上げてください。
- ・ あぜ際を後進で作業の位置決めを行う場合は、作業機を十分に持ち上げ、あぜにぶつからないようにしてください。

作業機の損傷につながります。

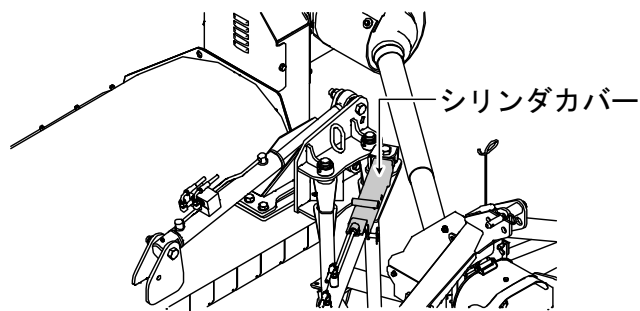
- ・ キャビン付きトラクタの場合は、リアウィンドウを閉めて、作業機の昇降操作を行ってください。

トラクタや作業機の損傷につながります。

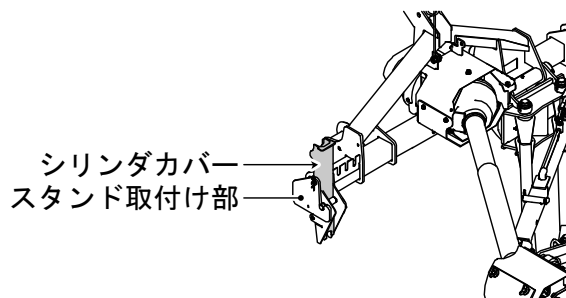
- ・ PTO のクラッチをつなぐときは、必ずエンジンをアイドリング状態にしてください。
- ・ PTO のクラッチをつなぐときは、ゆっくりとつないでください。カutting軸の回転が安定してから、少しずつエンジンの回転数を上げてください。

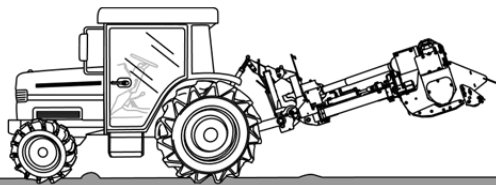
過大な負荷がかかり、機械を損傷するおそれがあります。

移動時には、必ず横スライド用油圧シリンダにシリンダカバーを取付けてください。



作業時には、必ず横スライド用油圧シリンダからシリンダカバーを外し、ヒッチアームのスタンド取付け部に取り付けてください。





9.2 移動のしかた

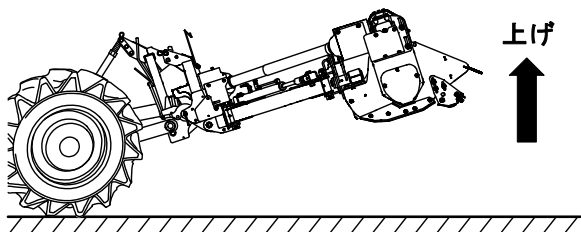
1 トラクタのエンジンをかけます。

2 作業機を格納位置にします。
「9.5 横スライド操作」、「9.6 傾斜操作」
(40 ページ) を参照してください。

注 記

- ・ 格納位置は、油圧シリンダ（横スライド用）が最伸、かつ作業機が水平の状態です。

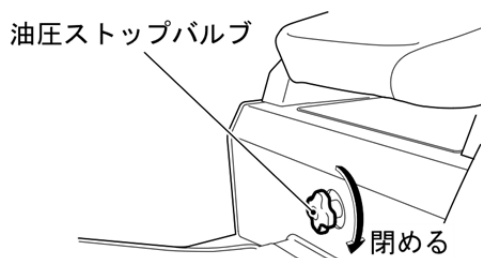
3 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）で作業機を最上げ位置にします。



4 油圧ストップバルブを完全に閉めます。

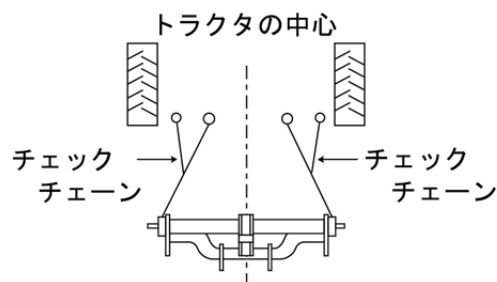
注 記

- ・ 作業機が下がらないようにしてください。



5 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

6 作業機が左右に振れないように、チェックチェーンを張り、ロックナットを締めます。

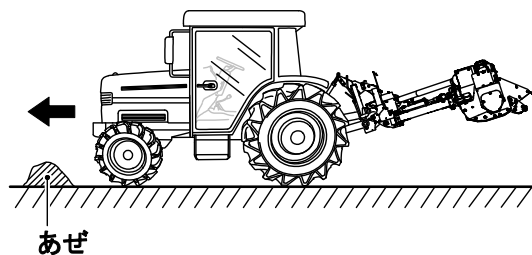


7 トラクタのエンジンをかけます。

8 PTO 変速レバーを「中立」の位置にしたまま、トラクタをゆっくりと移動させます。

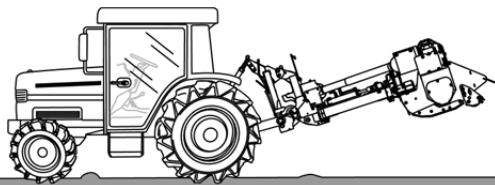
◆ほ場への出入り

ほ場への出入りはあぜと直角に、ゆっくり前進で行います。



注 記

- ・ 勾配がきつい場合は、後進で上り、前進で下りてください。
- ・ 作業機の地上高が不足する場合は、トップリンクを縮め、地上高を確保してください。



9.3 作業のしかた

9.3.1 旋回作業方法

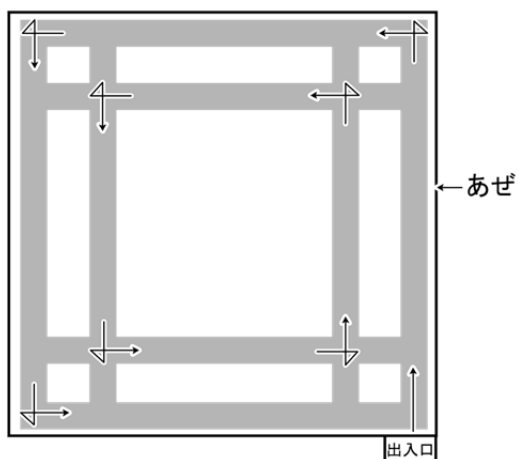
旋回作業方法に決まりはありませんが、以下に例として旋回方法を示します。

注 記

- 止まっているカッティング軸を回転させる前に、必ず作業機を水平にしてください。フレール爪が側板に当り、正常に回転しないことがあります。

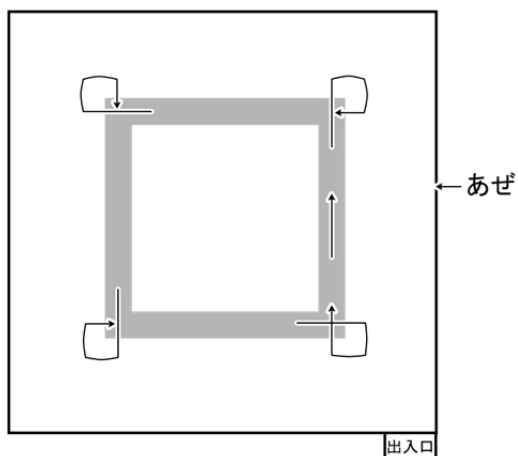
1

ほ場の外側から内側へ、3~5 回程度刈り取っていきます。



2

外回りができるようになったところで旋回方向を変え、ほ場の内側へ刈り取りを進めていきます。



9.4 上手な作業のしかた

9.4.1 作業速度

トラクタの作業速度は、2.0~5.0 km/h が標準です。草の種類や草丈によりエンジンの馬力が不足するときは、トラクタの速度を遅くしてください。

9.4.2 PTO 回転速度

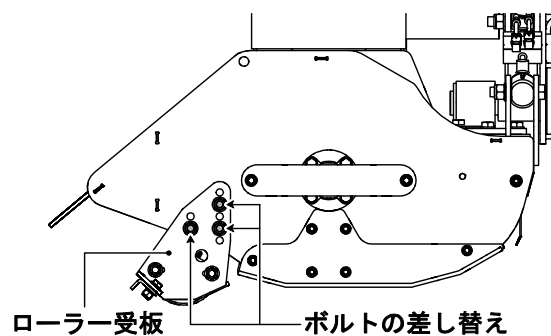
注意

- PTOクラッチの接続は、エンジン回転数 1500 rpm 以下で行ってください。
【守らないと】 傷害事故や作業機の損傷のおそれがあります。

重要

- PTO は 540 回転で使用してください。作業機やトラクタの損傷につながります。

9.4.3 刈り高さの調整



1

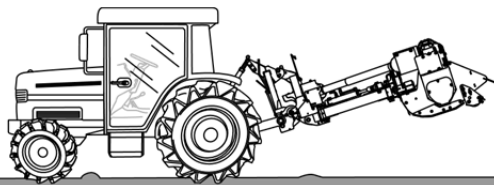
ローラー受板のボルトを差し替えて刈り高さを調整します。

注 記

- 爪の磨耗が進行した場合は、刈り高さを深くしてください。
- 標準の刈り高さは、中央の穴です。
- ボルトの締め忘れに注意してください。

2

トップリンクを調整してヒッチフレームを垂直にします。



9.5 横スライド操作

横スライド操作は、トラクタ中心より右へ、TDX1400 シリーズは 2,200 mm、TDX1600 シリーズは 2,700 mm まで無段階に調節できます。

トラクタの油圧を下げて作業機が地面に付かない程度に低くすると油圧シリンダの負担が少なくなります。格納位置は、油圧シリンダ（横スライド用）が最伸、かつ作業機が水平の状態です。

9.6 傾斜操作

傾斜操作は、上方向に 70 度、下方向に 55 度の間で無段階に角度を調節できます。

10 取外しについて

10.1 取外しの注意事項

⚠ 危険

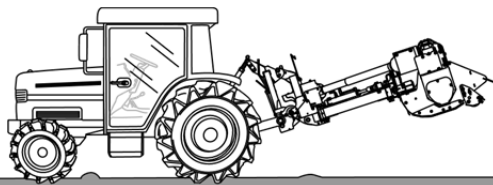
- 取外したトラクタの PTO 軸カバー、作業機の入力軸カバーを元どおりに取付けてください。
【守らないと】巻き込まれて死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 平らで固い場所を選び、いつでも危険を避けられる態勢で行ってください。
- 作業機を取外すときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。
- 作業機をトラクタから取外す前に、必ず作業機を格納位置にし、スタンドを取付けてください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故、作業機の損傷をまねくおそれがあります。

⚠ 注意

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
【守らないと】取外しができなかつたり、傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながったりするおそれがあります。
- 作業機をトラクタから取外す前に、必ず油圧取出しの接続を取外してください。
【守らないと】油圧ホースやコネクタ類の損傷、または作業機が転倒し損傷します。



重要

- ・ ジョイントを取外したら、必ず作業機の入力軸に入力軸キャップを取付けてください。作業機の損傷につながるおそれがあります。

10.2 取外しの準備

トラクタから作業機を取外す前に、トラクタのPTO軸と作業機の入力軸からジョイントを取外し、作業機にスタンドを取付けます。

重要

- ・ **トラクタから作業機を取外す前に、必ずジョイントを取外してください。**
トラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

1

作業機を格納位置にします。
「9.5 横スライド操作」、「9.6 傾斜操作」(40 ページ)を参照してください。

注 記

- ・ 格納位置は、油圧シリンダ(横スライド用)が最伸、かつ作業機が水平の状態です。

2

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

3

トラクタの外部油圧コントロールレバーを上下または左右に3、4回動かして、油圧ホース内の圧力を抜きます。

注 記

- ・ 外部油圧コントロールレバーの操作方は、トラクタメーカーにより異なります。詳細はトラクタの取扱説明書を参照してください。

4

油圧ホース先端の油圧カプラをトラクタの外部油圧取出口から取外します。

重要

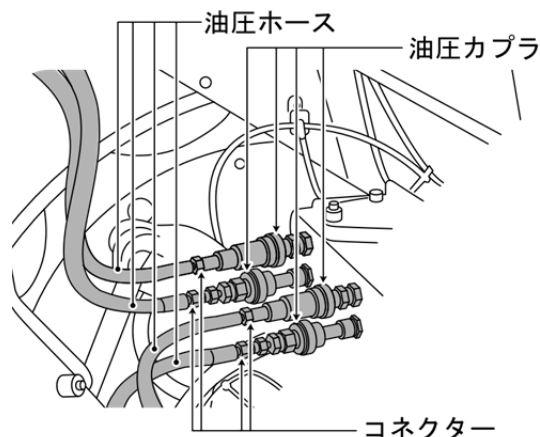
- ・ 油圧ホース先端の油圧カプラと外部油圧取出口に防塵キャップを取付け、ゴミや泥が入らないようにしてください。
作動不良の原因になります。

環境

- ・ 作動油をこぼさないように、ウエスなどで受けてください。
環境汚染になります。

注 記

- ・ 外部油圧取出口は、トラクタメーカーにより異なります。詳細はトラクタの取扱説明書を参照してください。



5

トラクタのエンジンをかけます。

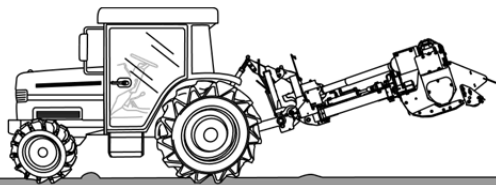
重要

- ・ 3Lシリーズと標準3点リンク直装(1Lシリーズ)は、トラクタから作業機を取外す前に、必ずジョイントを取外してください。

トラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

注 記

- ・ 4Lシリーズの場合は、手順 へ進んでください。



6 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作して、ジョイントを取外しやすい位置（角度）に、作業機を調整します。

7 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

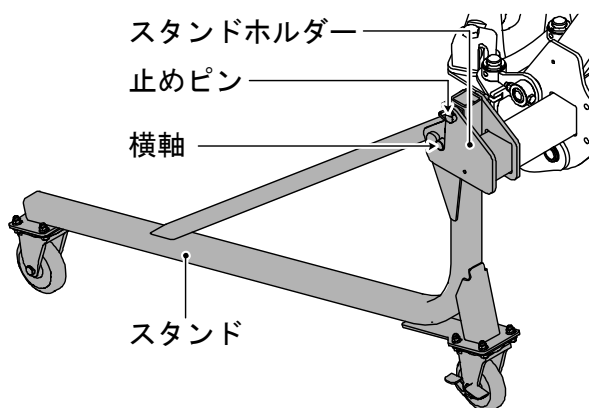
8 ジョイントをトラクタの PTO 軸から外し、次に作業機の入力軸から外します。

9 トラクタのエンジンをかけます。

10 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げて、スタンドが取付けやすい高さまで作業機をゆっくり上げます。

11 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

12 作業機のスタンドホルダーにスタンドの横軸を掛け、止めピンを差して固定します。



注 記

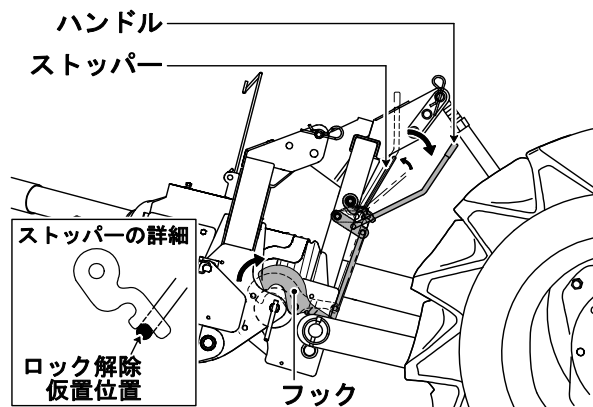
- ・ ストッパ付キャスターが入力軸側になるように組付けてください。
- ・ スタッパ付キャスターのストッパをロック位置にしてください。

10.3 トラクタからの取外し

10.3.1 4L/3L シリーズ

1 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

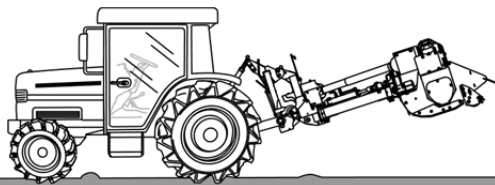
2 カプラのストッパーを引き上げてハンドルのロックを解除し、ハンドルを引いてフックを解除します。



3 トラクタのエンジンをかけます。

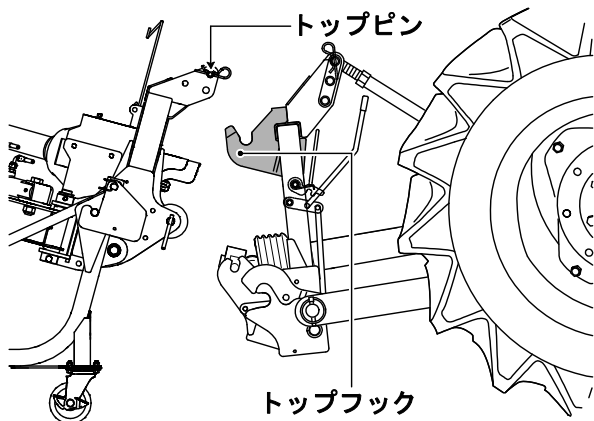
4 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり下げます。





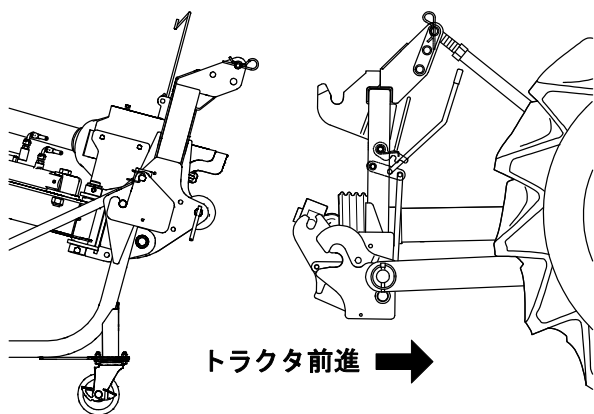
5

カプラからローアピンガイドが抜け、トップピンからトップフックが外れたのを確認します。



6

トラクタをゆっくり前進させます。



注 記

- ・ 作業機が外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。

10.3.2 標準 3 点リンク直装 (1L シリーズ)

1

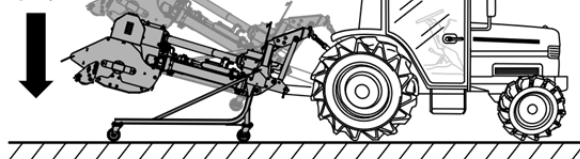
トラクタのエンジンをかけます。

2

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり地面まで下げます。



下げ

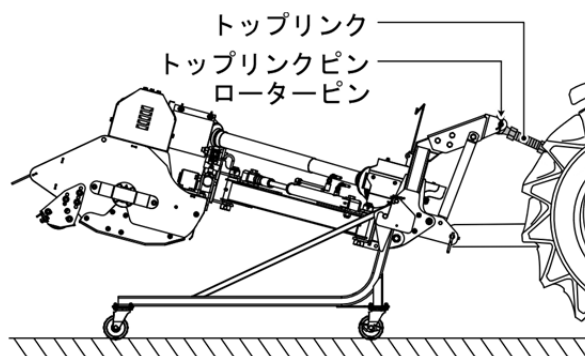


3

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

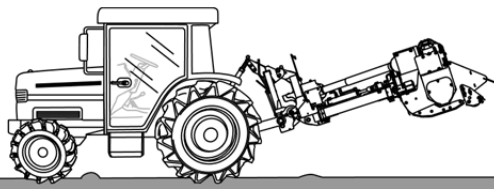
4

ローターピンを外してトップリンクピンを抜き、トラクタのトップリンクを作業機のマストから取外します。



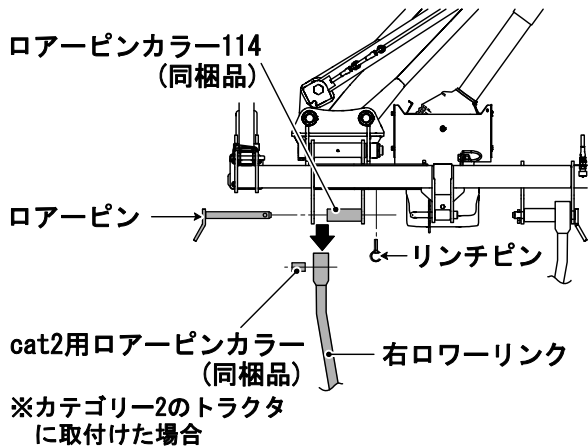
注 記

- ・ 外れないときは、トップリンクの長さを調節してください。



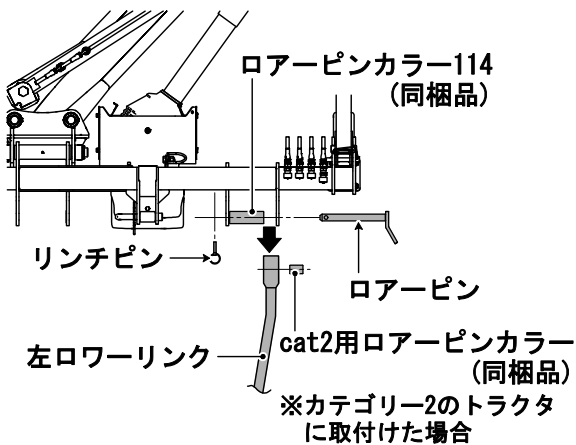
5

トラクタの右ローリンクを作業機の右ヒッチアームから取外します。



6

トラクタの左ローリンクを作業機の左ヒッチアームから取外します。



7

トラクタのエンジンをかけ、トラクタをゆっくり前進させます。

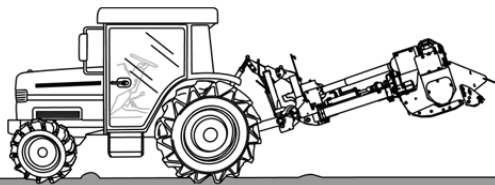
11 保守・点検

長くお使いいただくためには、日常の保守管理が大切です。

11.1 保守・点検時の注意事項

警告

- 交通の邪魔にならない場所で行ってください。
 - 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
 - トラクタの車輪には車止めをしてください。
 - トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
 - PTO 回転を止めても、10 秒以上の間、カッティング軸が回り続けるため、必ずカッティング軸の回転が止まっていることを確認してから、保守・点検・調整を行ってください。
 - 作業機が下がることを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。
 - 変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。
- 【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。
- 保守・点検・調整で取外したカバー類は、必ず取付けてください。
- 【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注意

- 点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。
【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。
- 厚手の手袋を着用し、手を保護してください。
【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

環境

- ・ オイルを排出するときは、必ず容器に受けてください。地面へのたれ流しや川への廃棄は絶対にしないでください。

使用済みのオイルをむやみに捨てると環境汚染になります。

- ・ 廃油、各種ゴム部品、消耗品などを捨てる時は、お買い上げいただいた購入先にご相談ください。むやみに捨てると環境汚染になります。

11.2 ボルト・ナットのゆるみ点検

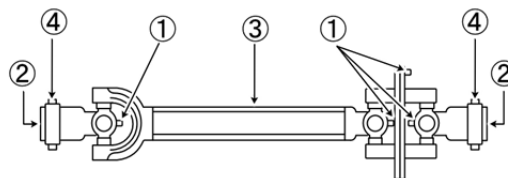
使用時ごとに各部のボルト・ナットを増締めしてください。
新品の場合は、使用開始から2時間後に必ず増締めをしてください。

11.3 ジョイントの給油

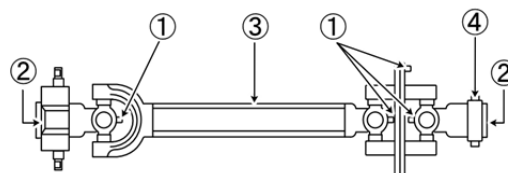
ジョイントの給油は、次表のとおり実施してください。

番号	給油箇所	給油時期
①	グリースニップル	使用時ごとにグリースを注入する
②	ジョイントスプライン部	使用時ごとにグリースを塗る
③	シャフト	シーズン後にグリースを塗る
④	ロックピン	シーズン後に潤滑油を塗る

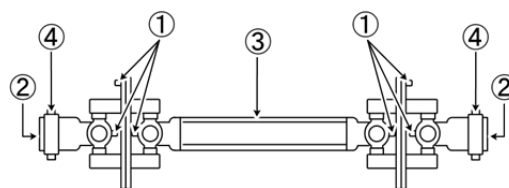
◆広角ジョイント



◆4セットジョイント

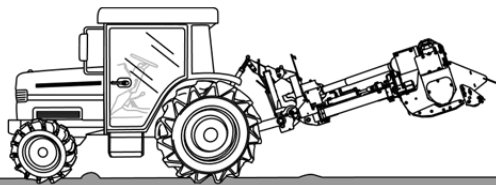


◆後部長尺ジョイント



注 記

- ・ ジョイントカバーにも、グリースニップルが左右1箇所ずつあります。使用時ごとにグリースを注入してください。



11.4 オイル量の点検と交換

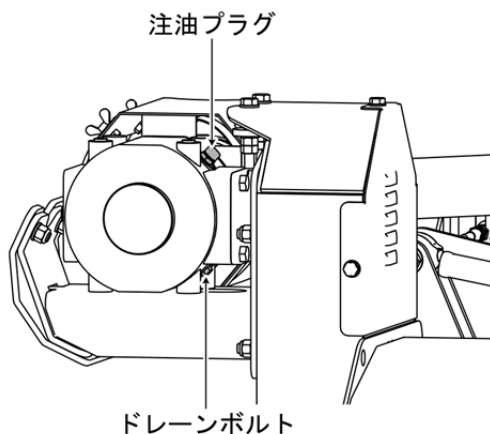
- (a) オイル量の点検
各部のオイル量を点検してください。不足の場合はギヤオイル#90を補給してください。
- (b) オイル交換
工場出荷時に給油してあります。
1回目の交換時間があるまでは、そのまま使用してください。

給油・オイル交換は、次表のとおり実施してください。

給油箇所	潤滑油の種類	油量	交換時間	
			1回目	2回目以降
ミッションケース	ギヤオイル#90	0.9 L	20 時間後	150 時間ごと
カッティング軸 左右軸受部	グリース	適量	使用時ごと	
ローラー 軸受部	グリース	適量	使用時ごと	

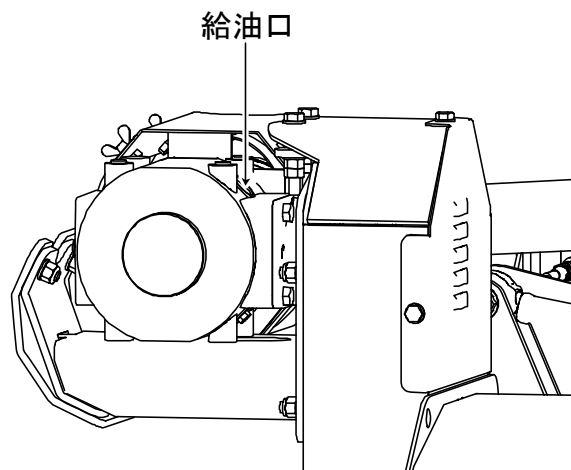
11.4.1 ミッションケース

- 1** ミッションケース上の注油プラグとドレーンボルトを取外して、オイルを排出します。

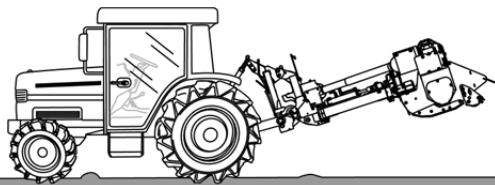


- 2** ドレーンボルトを取付けます。

- 3** 給油口からギヤオイル#90を規定量(1.8L)給油します。



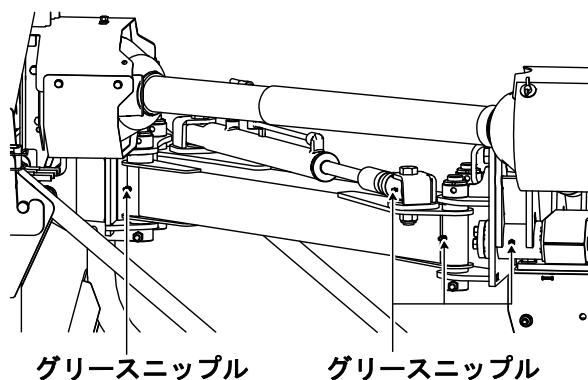
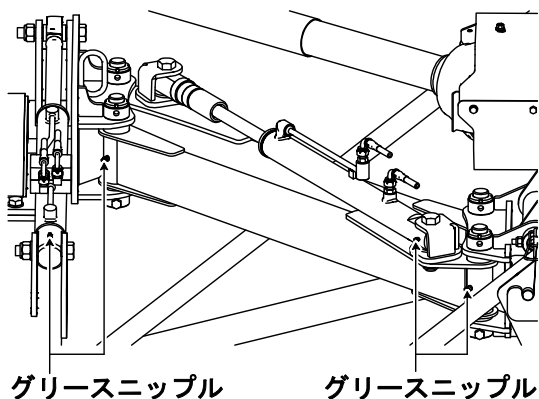
- 4** 注油プラグを取付けます。



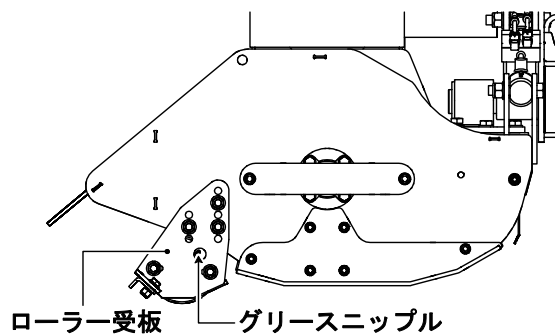
11.5 グリースの補充

グリースニップルにグリースを適量注入してください。

11.5.1 平行リンク 油圧シリンダ

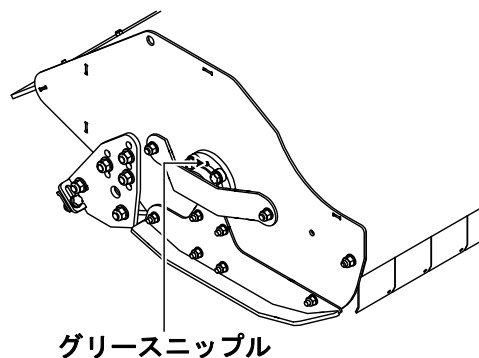


11.5.2 ローラー軸受部

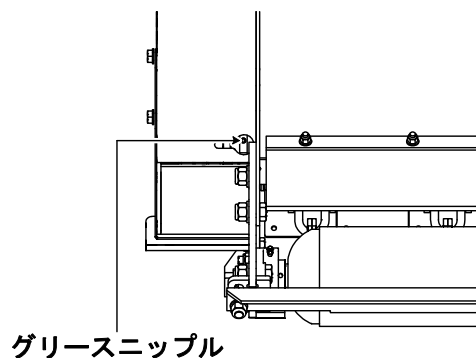


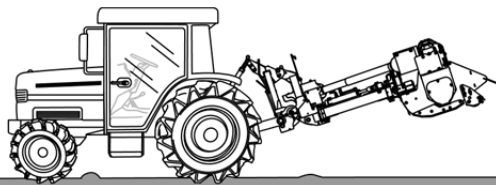
11.5.3 カutting軸受部

◆右軸受部



◆左軸受部





11.6 Vベルトの調整

警告

- 点検・整備のときに取外したフタは、必ず元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて傷害事故の原因になります。

新しいVベルトは使用すると初期伸びします。交換後はじめの数日は、作業終了後に必ずベルトの張り調整を行い、その後も定期的に確認してください。Vベルトは純正品をお使いください。

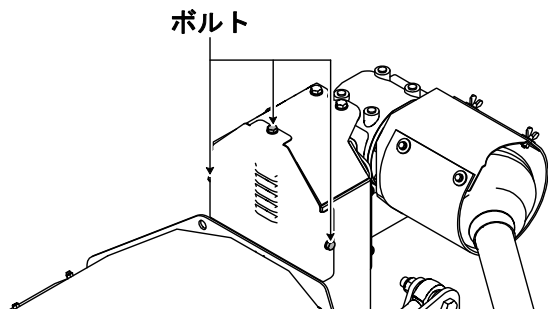
Vベルトのサイズと部品番号

型式	サイズ	本数	部品番号
TDX1400 TDX1600	SPB1400	3	R487 165000

11.6.1 フタの外し方

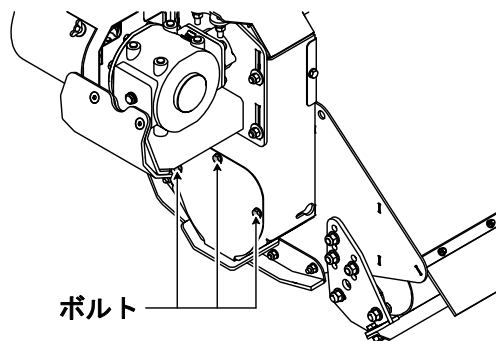
1 作業機をトラクタに取付けている場合は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

2 ボルト（3本）を外して、上側のフタを取外します。



3

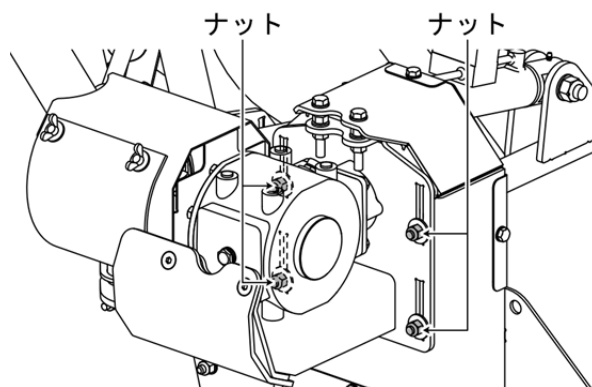
ボルト（3本）を外して、下側のフタを取外します。



11.6.2 Vベルトの調整

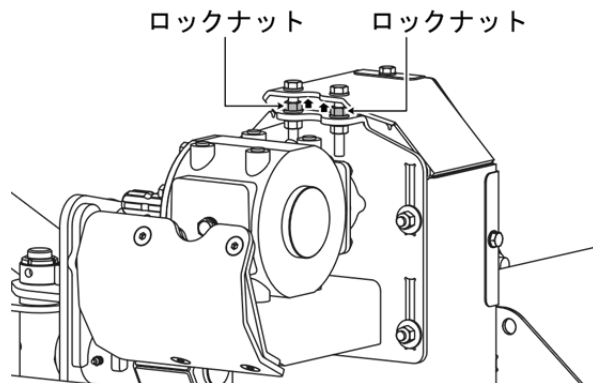
1

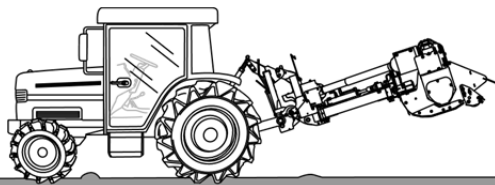
フレームのナット（4箇所）をゆるめます。



2

調節用ボルトのロックナット（2箇所）をゆるめます。



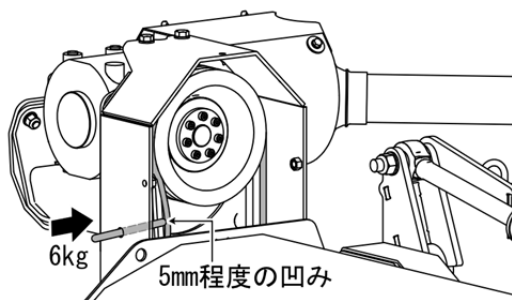
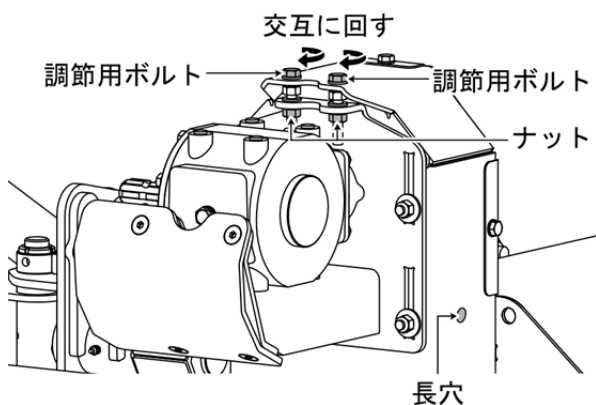


3

調節用ボルトの頭を時計回りに交互に回してミッションを引き上げ、Vベルトの張りを調整します。

注 記

- ・ ナットにスパナをかけて回り止めをしてください。
- ・ 直径 6mm 程度のピンなどを使用し、1本のベルトをフレームの長穴から 6kg の力で押して、5mm 程度凹む位置が適正な張力です。

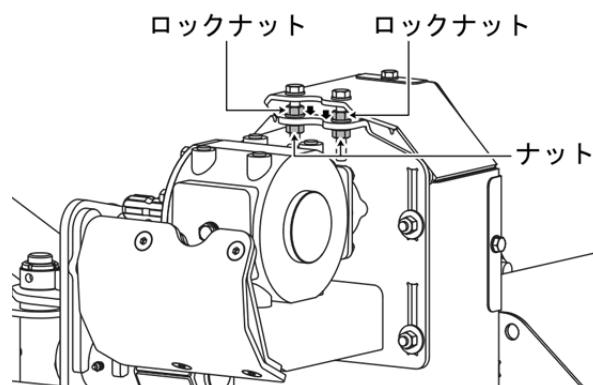


4

調節用ボルトのロックナット（2箇所）を締めます。

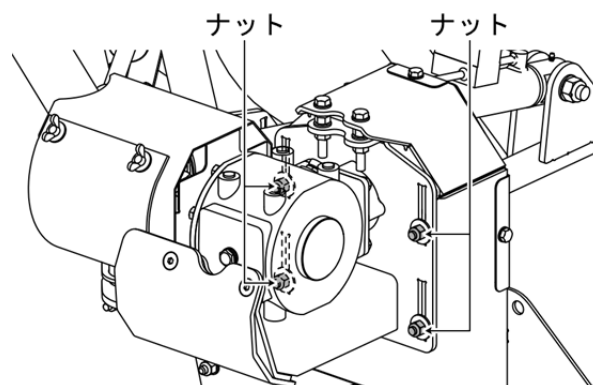
注 記

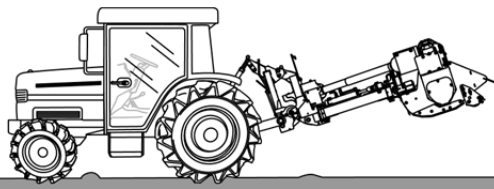
- ・ 両方のナットが指で回せなくなるまで締めてから、ナットにスパナをかけて回り止めをしてください。



5

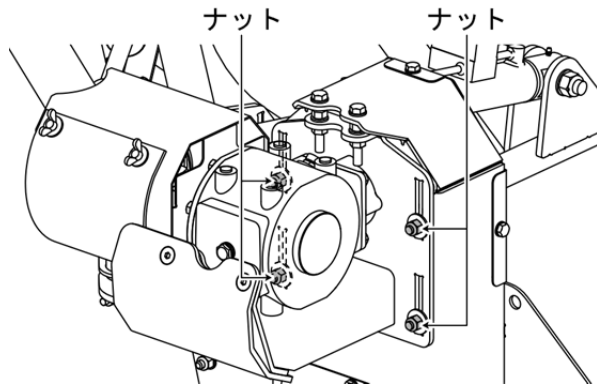
でゆるめたナット（4箇所）を締付けて固定します。



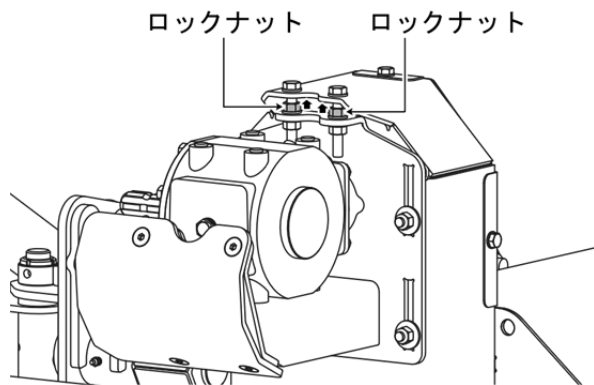


11.6.3 Vベルトの交換

1 フレームのナット（4箇所）をゆるめます。



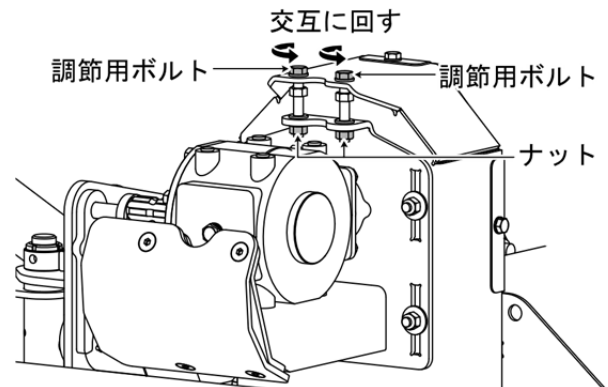
2 調節用ボルトのロックナット（2箇所）をゆるめます。



3 調節用ボルトの頭を反時計回りに交互に回してミッションを下げ、Vベルトの張りをゆるめます。

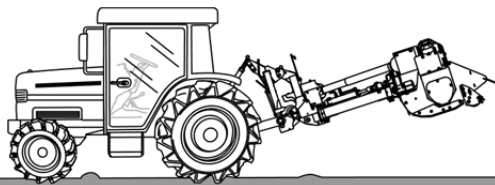
注 記

- ・ ナットにスパナをかけて回り止めをしてください。



4 Vベルトを交換します。

5 「11.6.2 Vベルトの調整」(49～50 ページ)を参照し、Vベルトの張りを調整します。



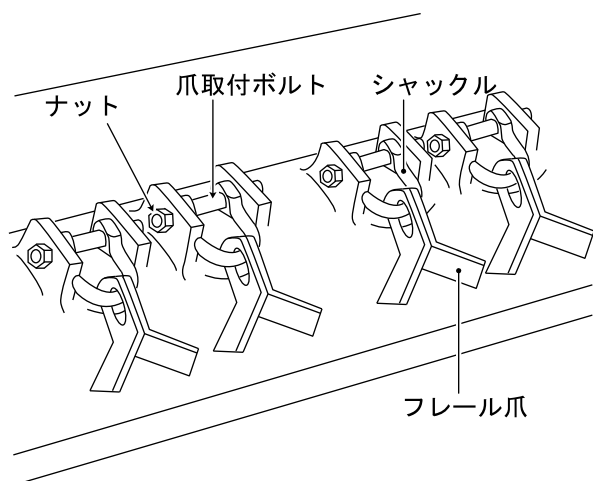
11.7 フレール爪の点検と交換

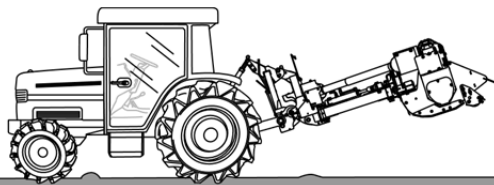
フレール爪が磨耗すると切断能力が低下します。
また、磨耗・欠損したまま使用すると回転バランスが崩れ、機械が振動します。

- ・ 作業中、カッティング軸は高速で回転しています。フレール爪や爪取付ボルト・ナットの消耗に注意し、使用することにより点検してください。
- ・ フレール爪を交換するときは、2回に1度はシャックル、爪取付ボルト・ナットも一緒に交換してください。
- ・ 爪取付ボルトは、シャックルが自由に動くように締めてください。

注 記

- ・ 爪取付ボルト・ナットを締めすぎるとシャックルが動かなくなり、フレールの効果がなくなります。また、シャックル両側の板が曲がり、元に戻らなくなります。



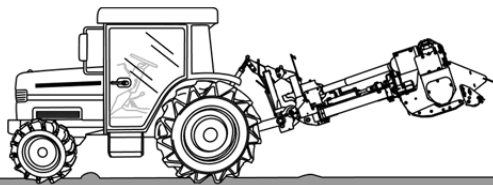


11.8 点検整備チェックリスト

時 間	項 目
新品使用始め	① ミッションケースのオイル量点検
	② カutting軸左右軸受部のグリース点検
新品使用 2 時間	① ボルト・ナットの増締め
新品使用 20 時間	① ミッションケースのオイル交換
	② カutting軸左右軸受部のグリースニップルにグリース注入
30 時間ごと	① Vベルトの張り調整
使用前	① ミッションケースのオイル量、オイル漏れ点検
	② 各部の損傷、ボルト・ナットのゆるみ点検・増締め
	③ ジョイントのグリースニップルにグリース注入
	④ ジョイントのスプライン部にグリースを塗る
	⑤ カutting軸左右軸受部のグリースニップルにグリース注入
	⑥ ローラー軸受部のグリースニップルにグリース注入
	⑦ Vベルトの張り具合の点検
	⑧ フレール爪の点検、交換
	⑨ 地面から上げてフレール爪を回転させ、異音・異常のチェック
	⑩ 止め輪、Rピン、割ピンの点検
使用后	① きれいに洗浄して水分ふきとり
	② ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落チェック
	③ フレール爪などの磨耗、切損チェック
	④ 入力軸にグリースを塗る
	⑤ 動く部分に注油およびグリースを塗る
シーズン終了後	① ミッションケースのオイル交換、オイル漏れ点検
	② ジョイントのシャフトにグリースを塗る
	③ ジョイントのロックピンに潤滑油を塗る
	④ 無塗装部にサビ止め
	⑤ 消耗部品は早めに交換

※ 変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理してください。

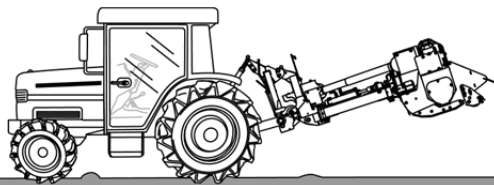
お客様でできない作業項目は、お買い上げいただいた購入先へご相談ください。



11.9 異常と処置一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に次表の異常が発生した場合は、再使用せずすぐに次の処置をしてください。

部位	症状	原因	処置
カッティング軸	異音の発生	軸受ベアリングの異常	ベアリング交換
		爪取付ボルトのゆるみ	爪取付ボルト増締め
	振動の発生	カッティング軸の曲がり	カッティング軸交換
		フレール爪の欠損	部品の取付け
	カッティング軸が回らない	Vベルトの切れ、ゆるみ	Vベルト交換、調整
		駆動軸の切れ	駆動軸交換
ミッションケース	異音の発生	ベアリングの異常	ベアリング交換
		ギヤの損傷	ギヤ交換（ベベルギヤの交換は組み合わせでお願いします）
		ベベルギヤのカミ合い異常	シムで調整
	オイル漏れ	入力軸オイルシールの異常	オイルシール交換
		ロックタイトの劣化	ロックタイト塗り直し
		締付ボルトのゆるみ	ボルト増締め
	熱の発生	オイル量不足	オイル補給
	オイル異常減少	駆動軸オイルシールの異常	オイルシール交換
ジョイント	異音の発生	グリース量不足	グリース注入
	ジョイント鳴り	ジョイント折れ角が不適切	前後角度の調整
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	たわむ	シャフトのカミ合い幅不足	長いものと交換
スプライン部のガタ	ロックピンとヨークの磨耗	すぐに交換	



12 格納について

⚠ 注意

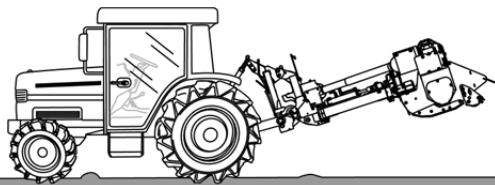
- 必ず作業機を格納位置にし、スタンドを取付けて、転倒を防止してください。
- スタンドのキャスターにストッパをかけて、ころがり防止をしてください。
【守らないと】作業機の転倒などにより、傷害事故や作業機の損傷につながります。
- カプラをトラクタから取外した場合、取外したカプラを作業機に取付けて格納しないでください。
(カプラ仕様)
【守らないと】カプラが落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

重要

- ・ ジョイントは作業機から外し、ほこりなどの付かないところに格納してください。

格納する前に下記の作業を行ってください。

- (1) 作業機はきれいに清掃し、塗装のできない入力軸・ジョイントのスプラインには必ずサビ止めのために、グリースを塗ってください。
- (2) 格納はできる限り屋内にしてください。



13 保証とサービスについて

13.1 保証について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられるときに必要となるものです。
お読みになったあとは大切に保管してください。

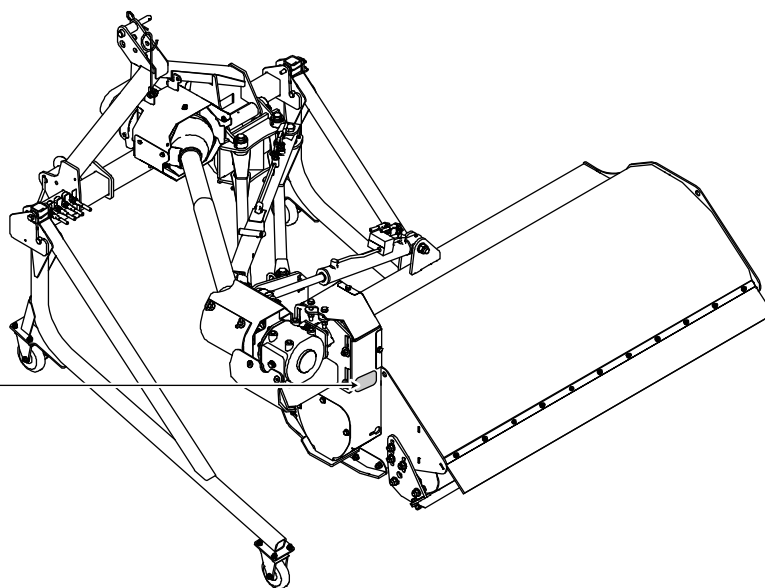
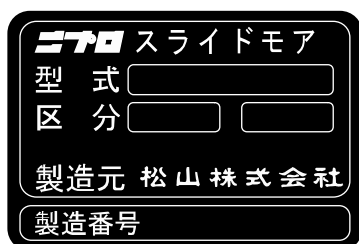
13.2 アフターサービスについて

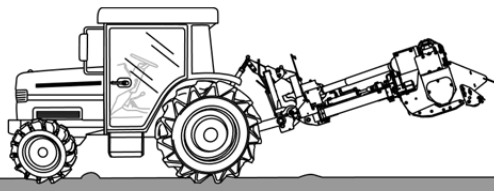
13.2.1 修理を依頼される時

作業機の調子が悪いときは、この取扱説明書を参照し点検してください。
点検・整備しても不具合がある場合は、お買い上げいただいた購入先までご連絡ください。

<ul style="list-style-type: none"> 型式名と製造番号 	ネームプレートに記載（「13.2.2 ネームプレート」を参照）
<ul style="list-style-type: none"> ご使用状況 	<ul style="list-style-type: none"> 果樹園ですか？ グラウンドですか？ 休耕地ですか？ ほ場の条件は石が多いですか？ 強粘土ですか？ トラクタの速度は？ ・PTOの回転数は？
<ul style="list-style-type: none"> どのくらい使用されましたか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 約□□アール または□□時間
<ul style="list-style-type: none"> 不具合が発生したときの状況をなるべく、くわしく教えてください。 	

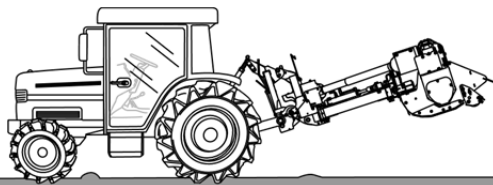
13.2.2 ネームプレート





13.3 補修部品と供給年限について

- 補修部品は、純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や性能に影響する場合があります。
- この作業機の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期等ご相談させていただく場合があります。



14 用語と解説

アタッチメント

作業機にあと付けする製品

オートヒッチ、カブラ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリーブ(速度)

超低速の作業速度

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

ターンバックル

ねじ機構により胴部を回転させて両端の長さを調整できる装置

ダッシング

ブレードの回転でトラクタが前に押され飛び出すこと

チェックチェーン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

Vベルト

巻掛け伝動装置の一種で、動力の伝達に摩擦力を使うベルト。ドライブの一種。ベルト断面は外周側が広く内周側が狭い台形(V字形状)をしているのが特徴

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

メカニカルロック

機械的に固定する

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロワーリンクと連結しているアーム

リリーフ状態(音)

油圧シリンダが最縮および最長時、これ以上伸び縮みできないときに音が変わったとき

リリーフ弁

油圧装置に設定以上の油の圧力がかかり油圧装置が損傷することを防止する弁

ロワーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

ワンウェイクラッチ

一方の方向のみ回転力を伝達するフリーホイールの一種

<http://www.niplo.co.jp>

Niplo 松山株式会社

- 本社 〒386-0497
長野県上田市塩川5155
Tel.(0268)42-7500
Fax.(0268)42-7556
- 物流センター 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel.(0268)36-4111
Fax.(0268)36-3335
- 北海道営業所 〒068-0111
北海道岩見沢市 栗沢町由良194-5
Tel.(0126)45-4000
Fax.(0126)45-4516
- 旭川出張所 〒079-8451
北海道旭川市永山北1条8丁目32
Tel.(0166)46-2505
Fax.(0166)46-2501
- 帯広出張所 〒082-0004
北海道河西郡芽室町東芽室北1線18番10
Tel.(0155)62-5370
Fax.(0155)62-5373
- 東北営業所 〒989-6228
宮城県大崎市古川清水三丁目石田24番11
Tel.(0229)26-5651
Fax.(0229)26-5655
- 関東営業所 〒329-4411
栃木県栃木市大平町横堀みずほ5-3
Tel.(0282)45-1226
Fax.(0282)44-0050
- 長野営業所 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel.(0268)35-0323
Fax.(0268)36-4787
- 岡山営業所 〒708-1104
岡山県津山市綾部1764-2
Tel.(0868)29-1180
Fax.(0868)29-1325
- 九州営業所 〒869-0416
熊本県宇土市松山町1134-10
Tel.(0964)24-5777
Fax.(0964)22-6775
- 南九州出張所 〒885-0074
宮崎県都城市甲斐元町3389-1
Tel.(0986)24-6412
Fax.(0986)25-7044

